

科目名	教職入門A		
担当教員名	松岡 敬明、日出間 均		
ナンバリング	KBa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

「教職入門」は、教育職員免許法に定められた教職科目 (「教職の意義等に関する科目」) で、教育職員免許状を取得 (大学で教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける) ための入口にあたる教科です。講義・演習の内容は「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容 (研修、服務、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供」などです。

#### 科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す 1 年生 (児童教育学科) です。前期に、最初の教職科目として、体験や事前の予習を元に、『教師の仕事とは何か』ということをもさまざまな角度から学修します。

この科目を履修した後に、教育の原理や原則に関する科目 (教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目 (学校関係法規)、教育の心理に関する科目 (教育心理学) を学修します。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

具体的な内容は、国家存立の基盤としての教育を支え、発展させる教員への期待や、教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、問題解決討議法、事例研究法 (インシデント・プロセス法) などを援用し、その成果をもとに新たな課題を追究できるようになることをねらいとしています。

#### 内容

教師の使命を果たすために不可欠な資質や能力を身に付けるための基礎的な知識や技能を修得し、これを活用して、種々の教育課題を追究したり、課題解決したりすることを通して、教職の意義、教員の役割、職務内容、研修・研究等についての情報を収集し、自らの教師像を描く。自らの能力・適性について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための方法を明らかにする。教員免許取得に向けた教職課程の履修に係る学習計画を立て、教職に就くための学内の機能の活用について、見通しをもつ。

1	オリエンテーション (教職の使命とは)	松岡・日出間
2	学校の日・学校の一年	松岡
3	専門職としての教員と人権教育の推進	松岡
4	基本的な教育法規	松岡
5	教育公務員の服務	松岡
6	教育公務員の研修	松岡
7	学習指導要領について	松岡
8	教育課程の編成と実施	日出間
9	チームとしての学校の在り方	日出間
10	教材研究と授業づくり	日出間
11	健康・安全指導について	日出間
12	生徒指導について	日出間
13	学級経営について	日出間
14	保護者・地域住民との連携	日出間

**評価**

授業への参加度と毎時間提出する小レポート（60点）、最終試験（40点）として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

**授業外学習**

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理し、これをもって授業に臨むこと。

【事後学修】修得した知識や問題解決技法等で得た知見を記録するとともに、授業で取上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考究し、レポートにまとめる。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】『小学校学習指導要領』（平成20年3月文部科学省告示）、『小学校学習指導要領解説「総則」』（平成20年3月文部科学省刊）、

【参考図書】授業時に指示する。

科目名	教育学概論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa202		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生前期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

#### 内容

第1回：「教育とは何か (第1章)」1人間への問いと教育への問い、2学ぶことと教えること、3発達への助成的介入、4教育と教化と形成

第2回：「学校とは何か (1) (第2章)」1学校の登場、2近代学校の性格

第3回：「学校とは何か (2) (第3章)」1近代以前の日本の学校、2日本の「近代化」と学校教育、3新たな出発、その後の展開

第4回：「こころとからだを育てる (第4章)」1こころとからだを育てる計画、2学力とは何か、3身体文化と教育、4道徳性の発達と教育、5教育における言葉と文化

第5回：「よりよく学び、教えるために (第5章)」1学習することの意味、2授業を改革するために、3学校教育の可能性

第6回：「教育評価とは何か (第6章)」1教育評価とは何か、2修了の認定と入学試験

第7回：「授業の可能性・学校の可能性 (第7章)」1授業をつくる、2学ぶことは変わることに、3学校をつくる

第8回：「教師の仕事 (第8章)」1教師とは何か、2教師の力量とは何か、3授業をつくる教師

第9回：「青年期と教育 (第9章)」1青年とは何か、2現代の青年と社会参加、3青年期の課題と教育

第10回：「社会教育と生涯学習 (第10章)」1人は学び続ける、2生涯学習と町づくり、3地球市民として生きるために

第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』 (第11章)」1「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ、2「子どもの権利条約」のもつ意義、3憲法・教育基本法 (旧法および現行法) と「子どもの権利条約」

第12回：「よりよい教育を求めて (第12章)」1子どもの権利の発見、2子どもの成長・発達をめぐる状況と子どもの「最善の利益」

第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」(イギリス産業革命期の少年労働)

第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」(斎藤喜博と島小の学校づくり)

第15回：まとめ

#### 評価

講義で毎回書いてもらう学修票 (80点) とその内容 (20点) を総合し、60点以上を合格点として単位認定します。

## 授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理して、講義に持参します。

【事後学修】講義内容を振り返り、ノートを整理します。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（第3版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学A		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KBa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

児童教育学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

小学校教諭課程の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に配布される課題問題をもとに教科書を読み解答をしておくこと

【事後学修】授業ないで使用/記入したプリントをノートにまとめ直す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	学校制度論 A		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBa201		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は教員免許状取得のための必修科目であり、「教職に関する科目」の中の「教育の基礎理論に関する科目」として位置づけられている。内容として教育に関する社会的、制度的または経営的事項を含む。

#### 科目の概要

教育制度の基本原則、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解する
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解する
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解する

#### 内容

1	教育制度とは何か
2	教育制度と学校体系
3	我が国の学校制度
4	諸外国の学校制度
5	憲法・教育基本法と戦後教育の基本原則
6	教育行政制度 ( 中央教育行政組織と地方教育行政組織 )
7	学校制度と児童生徒 ( 1 ) 就学・初等中等教育
8	学校制度と児童生徒 ( 2 ) 懲戒・学校事故
9	学校制度と教員・校長 ( 1 ) 職務・任用
10	学校制度と教員・校長 ( 2 ) 服務・懲戒
11	学校制度と教員・校長 ( 3 ) 研修・その他
12	学校制度と教育課程 ( 学習指導要領・教科書 )
13	学校評価の意義と課題
14	教育制度をめぐる今日的課題
15	まとめ

#### 評価

- 1 授業ごとの課題提出 ( 30% )      2 最終試験の達成度 ( 70% )

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】テキストの予習

【事後学修】新聞記事の中から教育制度にかかわるものを探し考察

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「自ら学び考える教職教養 教育課程・方法・制度・法規」（松田・星野・狩野・津吹）

学文社

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	中西 郁、齋藤 忍、高岩 亜輝子		
ナンバリング	KBa205		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度転換して10年、また、共生社会の形成に向けて、地域の通常の学級における、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応を含め、教師への期待が益々大きなものとなっています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄「特別支援教育の基礎理論に関する科目」に該当します。

#### 科目の概要

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。講義は、3名の教員が担当し、オムニバス形式で実施します。

#### 学修目標

- ・特別支援教育の基礎を理解する。
- ・特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解する。
- ・関係機関との連携について理解する。

#### 内容

1	特別支援教育とは（中西）
2	障害児教育の歴史と発展（中西）
3	特別支援教育体制の現状とインクルーシブ教育システムの構築（中西）
4	特別支援教育における教育課程の編成（中西）
5	障害に関わる生理・病理の基礎（1）（高岩）
6	障害の理解と教育的支援（1） 視覚障害・聴覚・言語障害（中西）
7	障害の理解と教育的支援（2） 知的障害（中西）
8	障害の理解と教育的支援（3） 肢体不自由・病虚弱（中西）
9	障害に関わる生理・病理の基礎（2）（高岩）
10	障害の理解と教育的支援（4） 学習障害（LD）（齋藤）
11	障害の理解と教育的支援（5） 注意欠陥/多動性障害（AD/HD）（齋藤）
12	障害の理解と教育的支援（6） 情緒障害・自閉スペクトラム症（ASD）（齋藤）
13	特別支援教育の展開：小・中学校における校内支援体制と連携システム（齋藤）
14	特別支援教育における関係機関との連携（1） 保育所・幼稚園・中学校との連携（齋藤）
15	特別支援教育における関係機関との連携（2） 保健・福祉・医療機関との連携（齋藤）

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加態度の評価（10%）で総合的に評価し、60%以上を合格とします。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

【参考図書】 「特別支援学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

【その他】 必要に応じて随時紹介します。

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	中西 郁、齋藤 忍		
ナンバリング	KBa208		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は、特別支援教育に関する科目の「特別支援教育領域に関する科目」に該当し、特別支援学校教諭一種免許状取得のための必修科目となっています。

##### 科目の概要

知的障害（肢体不自由、病弱）の定義、原因、分類、アセスメント、及び障害特性や行動特徴を心理的側面から学ぶとともに、教育の目標、内容、方法、個々の児童生徒に応じた指導・支援の在り方等について、基礎的な知識を学びます。

##### 学修目標（＝到達目標）

学校現場における指導、ケース検討等を通して、認知発達の状態の把握と教育のもつ意味について理解する。

#### 内容

1	知的障害の定義と知的障害児教育の歴史（齋藤）
2	認知特性と記憶・学習（齋藤）
3	認知の発達と算数・数学科の指導（齋藤）
4	言語とコミュニケーションの発達（齋藤）
5	言語の発達と国語科の指導（齋藤）
6	自閉症の学習スタイルと支援（齋藤）
7	自閉症の方への支援～自立課題発表会～（齋藤）
8	心理アセスメント・まとめ（齋藤）
9	知的障害（肢体不自由・病弱）の定義と原因・分類（中西）
10	知的障害の児童の運動機能と体育科の指導（中西）
11	各教科等を合わせた指導の意義と実際（中西）
12	各教科等を合わせた指導の指導計画の作成（中西）
13	障害の重い児童の個別の指導計画の作成（中西）
14	個別の教育支援計画の意義と活用（中西）
15	障害者の権利条約とインクルーシブ教育システム・まとめ（中西）

#### 評価

筆記試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加態度の評価（10%）で総合的に評価し、60%以上を合格とします。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前準備】 シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】 配付された資料により各自で振り返りを行い、授業内容を整理しまとめること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

【推薦図書】 授業内で必要な書籍等を紹介します。

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング	KBa307		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：肢体不自由教育の現状と課題についての基礎的理解を深め、それを基に肢体不自由教育の今日的課題に対する解決の方策を主体的に追求する姿勢を育成することを目的とする。本授業では、肢体不自由教育の歴史的変遷及び今日の課題について学び、主要な教育課題である教育内容・指導法について講述する。

学修の目標：1)特別支援教育における肢体不自由教育の特徴を歴史的展開の中で把握すること、2)肢体不自由教育の現状と課題について理解すること、3)今日的課題を解決する方策を追求して今後の方向性を修得することの3点である。

#### 内容

1	肢体不自由教育の実際とその理解
2	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状の課題
3	肢体不自由児の就学指導と進路指導
4	肢体不自由教育の教育課程
5	肢体不自由児に対する指導形態等の工夫、各教科等の指導の工夫
6	肢体不自由児の指導法1（自立活動：健康の保持）
7	肢体不自由児の指導法2（自立活動：健康の保持）
8	肢体不自由児の指導法3（自立活動：身体の動き）
9	肢体不自由児の指導法4（自立活動：コミュニケーション）
10	肢体不自由児の指導法5（自立活動：コミュニケーション）
11	交流及び共同学習
12	肢体不自由児のキャリア教育
13	授業づくりの基本
14	学習指導案の作成方法
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するレポート（40点）、筆記試験（40点）、通常の実験時の態度（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】参考図書等、関連する文献を読んでおくこと。

【事後学修】授業で配布された資料を参考に、毎回出題する課題について理解をすること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時に資料を配付する。

【参考図書】「肢体不自由教育の基本とその展開」日本肢体不自由教育研究会監修 慶應義塾大学出版会

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育概論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング	KBa308		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。  
ここでは、病弱児に対し適切な支援を行うために必要な専門的知識や取り組みの課題等の他、  
病弱教育に関する基本的な事項について学び、病弱児・病弱教育に関する理解を深める。

科目の概要

初めに病弱教育の歴史を概観する。

その後、病弱教育の対象とされる子どもの実態や病弱教育の現状について把握した上で、教育上の  
配慮事項、病弱教育の意義、病弱教育に携わる教師の役割等について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

病弱教育の対象とされる子どもや、その教育の場（特別支援学校等）に関する現状を理解する。  
病気の子どもの実態と病弱教育における配慮事項について理解する。  
病弱教育の意義と学校における取り組みの課題、病弱教育に携わる教師の役割等について  
理解する。

内容

1	病弱教育の歴史（１）
2	病弱教育の歴史（２）
3	病弱・身体虚弱の子ども（１）
4	病弱・身体虚弱の子ども（２）
5	病弱教育の現状（１）
6	病弱教育の現状（２）
7	病弱教育の現状（３）
8	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成（１）
9	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成（２）
10	病弱教育における配慮事項
11	病院等、関係諸機関との連携
12	通常学級における病弱・身体虚弱の子どもへの支援
13	病弱教育の意義と学校における取り組み
14	病弱教育に携わる教師
15	まとめ

## 評価

平常点10%、筆記試験70%、学修目標に関するレポート20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

リアクションペーパーにより授業内容についての質問等を把握し、次時以降に補足説明等を行う。試験については、結果を踏まえ内容について解説する。

## 授業外学習

【事前準備】病弱児、病弱教育について知っていること、わからないことを整理する。

シラバスを参照し、各時間または全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。

【事後学修】プリントや説明内容を再度確認して理解を深め、不明な点は質問等により理解を図る。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業においてプリントを配布する。

科目名	視覚障害教育概論		
担当教員名	神尾 裕治		
ナンバリング	KBa309		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

特別支援学校のみならず小・中学校等に在籍している、見えにくさの困難を抱えている児童生徒に対して、その実態を理解しその子に合った支援ができるための基礎的知識や指導方法内容を習得し、合理的配慮ができる教師の育成を目指す。特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目

#### 科目の概要

視覚障害とはどういうものを学び、視覚障害教育の歴史や制度を概観する。視覚障害の特性を踏まえた学習指導法(教育課程)、教材教具(点字、白杖歩行を含む)について研究し、教育現場で役に立つ知識を身につける。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- 視覚障害や視覚障害教育についての基礎的・基本的な知識・技能を説明できる。
- 視覚障害教育の特色である視覚に頼らない指導法、または視覚を活用した指導法を理解し、他障害の子どもにも活用できる。
- 視覚障害者の生活や職業・スポーツなどに興味関心を持ち、合理的配慮ができる。

#### 内容

1	オリエンテーション(視覚障害とは、目の機能と主な眼疾患、眼疾患による見え方の違い)
2	視機能評価(色弱者への対応、視機能評価、視力と黒板の見え方・板書の配慮事項)
3	視覚障害乳幼児の早期支援(視覚と認知の発達、支援内容と保護者支援、共遊玩具と触る絵本)
4	視覚特別支援学校の教育課程(対象と就学の仕組み、準ずる教育、重複障害教育、職業教育)
5	点字の歴史と指導法(ブライユ点字の誕生、日本訓盲点字の考案、点字の構造と体系的な指導)
6	触覚とは(触覚の弱点と利点、人間の発達と触覚、アクティブな感覚としての触覚の特徴)
7	触察の方法(視覚に依存しない学習、触運動のコントロール、立体・半立体・平面の触察)
8	教材教具づくり(盲児の概念形成の特徴、学習枠の活用、分類・見本合わせ・位置の構成)
9	歩行指導の理論と実際(ボディイメージと空間把握、校内地図、ガイド歩行、白杖歩行)
10	視覚障害教育の歴史と思想(琵琶法師・瞽女・箏曲、検校制度と鍼灸あん摩教育、理療教育)
11	弱視児童生徒の指導(多様な見え方、視認知力を高める学習、視覚補助具の活用、拡大教科書)
12	弱視者の体験談を聞く(自分の見え方、盲学校で学んだこと、生活・仕事・趣味、メッセージ)
13	重複障害児の指導(新生児医療の現状、応答する環境、課題設定状況の工夫、教材教具の工夫)
14	ICT教育・スポーツ(六点入力・音声・点字出力、webによる情報収集、視覚障害者スポーツ)
15	まとめ(権利条約と合理的配慮、センター機能・地域支援、医療・療育との連携、今後の課題)

#### 評価

授業への参加度(20点)、レポート(50点)、試験(30点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習する内容について教科書等で事前に調べ、問題意識を持って授業に臨むこと。

【事後学習】毎授業ごとに小レポートや課題を確実に仕上げ提出すること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳まゆみ・鳥山由子編著「視覚障害教育入門（改訂版）」ジース教育新社

【推薦書】文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説・総則編・自立活動編」

香川邦生編著「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」教育出版

全国盲学校長会編著「見えない・見えにくい子供のための歩行指導Q&A」ジース教育新社

猪平眞理編著「視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える」慶應義塾大学出版会

【参考図書】必要に応じて授業で紹介する

科目名	聴覚障害教育概論		
担当教員名	喜屋武 睦		
ナンバリング	KBa310		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

特別支援教育免許を取得希望の学生、また特別支援教育に興味・関心のある学生を対象とします。

#### 科目の概要

聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知るとともに、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。さらに、聴覚障害が発達に及ぼす影響を知り、障害特性に応じた教育について知見を得ることを目的とする。また、手話に対する理解を深めるため、毎回10分程度の手話学習を行う。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

聴覚障害の生理病理的な知識を得る。

聴覚障害児の発達やその課題について理解する。

聴覚障害に配慮した指導の在り方について考えることができる。

内容	
1	オリエンテーション：学習内容の説明
2	聴覚障害教育の制度
3	聴覚障害教育の歴史
4	聴覚障害とは？ : 音を聞く(聴く)とはどういうことか
5	聴覚障害とは？ : 聞こえないとはなにか
6	聴覚障害が発達に及ぼす影響 : コミュニケーション・社会性
7	聴覚障害が発達に及ぼす影響 : 言語獲得
8	聴覚障害児の言語指導
9	聴覚障害の早期発見と保護者支援
10	聞こえとコミュニケーション : 補聴器・人工内耳、及び集団補聴システム
11	聞こえとコミュニケーション : 手話の分類と特徴
12	聞こえとコミュニケーション : 学校現場でのコミュニケーション方法
13	ろう重複障害児の実態と支援
14	聴覚障害教育に関する今日的課題
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度25%、筆記試験75%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】参考書やインターネットを活用して自ら興味を深めることを期待する。

【事後学修】授業の内容についてしっかりと復習し、質問があれば積極的にしてほしい。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】基本的にプリント教材を使用して学習を進める

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】・改訂版 中野善達・根本匡文編著 聴覚障害の基本と実際. 田中出版 ・藤田郁代編著 聴覚障害学 第2版. 医学書院 他の図書については授業内で紹介する

科目名	重複障害教育概論		
担当教員名	中西 郁、阿部 晴美		
ナンバリング	KBa311		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：重複障害，重度・重複障害教育に関して，その概念，障害実態，教育の現状や課題等について理解を深めることを目的とする。本授業では，重複障害者の教育課程編成，重度・重複障害児の理解と指導法，指導計画の作成について講述する。

学修目標：1）重複障害及び重度・重複障害の概念，教育課程の取扱い，教育の現状と課題について理解すること，2）重度・重複障害児の指導のポイントについて理解すること，3）指導計画、指導案の作成の基本事項を理解することの3点である。

#### 内容

1	重度・重複障害教育の概要（中西）
2	重複障害のある児童の対応（1）知的障害のある自閉症の障害特性（中西）
3	重複障害のある児童の対応（2）知的障害のある自閉症の児童への指導（中西）
4	重度・重複障害の教育課程の特例（中西）
5	重度・重複障害児童の指導案の作成（1）（中西）
6	重度・重複障害児童の指導案の作成（2）（中西）
7	重度・重複障害児童の指導案の作成（3）（中西）
8	重度・重複障害児童の実態把握の方法の実際（阿部）
9	重度・重複障害児童の実態把握の方法の工夫（阿部）
10	重度・重複障害児童の摂食嚥下機能のメカニズムと発達（阿部）
11	重度・重複障害児童の摂食指導の実際（1）（阿部）
12	重度・重複障害児童の摂食指導の実際（2）（阿部）
13	重度・重複障害児童の個別の指導計画の作成の実際（阿部）
14	重度・重複障害児童の個別の指導指導の作成の工夫（阿部）
15	重度・重複障害の児童の包括的な支援（中西）

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で試験を振り返りをおこなうとともに、レポートにコメントを付す。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に、事前に参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配付された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で推薦する。授業時に関係する資料を配付する。

科目名	教育課程論 A		
担当教員名	大友 みどり		
ナンバリング	KBa312		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修するものである。

小学校教員を目指す2年生が後期に受講し、これから学ぶ各教科 (国語・算数など)、領域 (総合的な学習の時間・特別活動など) 等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになる。1年生で学修する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目である。このあとは、この科目の学修を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくことになる。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいである。

#### 内容

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法－学校教育の現状と課題
3. 学習指導要領と教育課程
4. 新学習指導要領の方向性、改訂のポイント
5. 学校における教育課程編成の手順
6. 組織としての学校 ー学校教育目標と学校経営
7. 組織としての学校 ー年間授業日数と年間行事計画
8. 組織としての学校 ー校務分掌と担任の役割
9. 年間指導計画と学習指導 (学級経営プラン)
10. 学校における教師の役割 (時間割表作成)
11. 計画的な授業実践 (学力向上と授業改善)
12. 特別の教科 道徳 (豊かな人間性の育成)
13. 特別活動と学級づくり
14. 総合的な学習の時間と学び方
15. 教育課程のまとめと振り返り

#### 評価

レポートおよび課題提出 60 点、授業への取り組み (リアクションペーパーの内容を含む) 40 点を総合して評価し、60 点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】『小学校学習指導要領』に目を通しておく。

【事後学修】『小学校学習指導要領』について、授業時に扱った箇所を熟読する。授業時に配布された資料、班発表の内容や班討論の内容を整理し、ノートのまとめを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】文部科学省『小学校学習指導要領』

その他、使用する資料は配布する。

【推薦書】 授業時に適宜紹介する。

【参考図書】 授業時に提示する。

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング	KBa313		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」の中の「教育課程の意義及び編成の方法」について学修する。

### 科目の概要

各学校における教育は、各学校の教育課程によって進められる。教育課程の歴史、法的根拠、諸外国との比較により、教育課程の意義、及び編成の方法を学ぶ。

### 学修目標

- ・教育課程の意味や史の変遷が理解できる。
- ・学習指導要領と教育課程編成の関係が理解できる。
- ・教育課程の編成の手続き、教育課程の果たす役割が理解できる。

## 内容

- 【第1回】学校教育と学校を取り巻く教育環境の変化
- 【第2回】教育課程の意義と教育課程編成・実施に関する法制
- 【第3回】教育課程と学習指導要領
- 【第4回】教育課程と教科書制度
- 【第5回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(1)
- 【第6回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(2)
- 【第7回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(3)
- 【第8回】新学習指導要領の特徴と教育課程の編成
- 【第9回】新学習指導要領と教育課程の編成 小学校
- 【第10回】新学習指導要領と教育課程の編成 中学校
- 【第11回】新学習指導要領と教育課程の編成 高等学校
- 【第12回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(1)
- 【第13回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(2)
- 【第14回】教育課程の評価方法及び教育課程の改善
- 【第15回】まとめのテスト

## 評価

授業への参加(20点)、課題への取組(40点)、まとめのテスト(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

- 【事前予習】次時の資料を確認し、問に対する私見をまとめ、講義に持参する。
- 【事後学修】学修の成果をふまえ、問に対する見解をまとめ、次回の講義に持参する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】学習指導要領 中学校

【推薦書】

- ・奈須正裕『よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説』教育開発研究所
- ・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社ベスト新書

【参考図書】随時紹介

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa314		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教諭一種免許状，幼稚園教諭一種免許状を取得するための必須科目である。

#### 科目の概要

小学校学習指導要領に基づき，「国語科」の目標と内容について理解する。〔知識及び技能〕の内容と関連を図りつつ，〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について，指導内容と活動とを結び付けて学び、学習指導略案を作成する。また，平成29年告示学習指導要領でも引き続き重視されている「言語活動」について，その背景と，授業づくりへの生かし方について学ぶ。

#### 学修目標（＝到達目標）

「国語科」の学習内容に関心をもち，積極的に授業づくりについて考えようとする。  
 学習指導要領の内容と教材・題材を結び付けて，簡単な学習指導案を作成する。  
 学習指導要領国語の目標と内容について，基礎的な知識を身に付ける。

#### 内容

1	ガイダンス～子どもの学力の状況，今，求められる学力と教育の動向～
2	教育課程における国語科の位置，学習指導要領の理解
3	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
4	「話すこと・聞くこと」の内容と指導 ～言語活動～
5	「話すこと・聞くこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
6	「書くこと」の内容と指導 ～言語活動～
7	「書くこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
8	国語科における学習評価の基本的な考え方
9	「読むこと」の内容と指導 ～言語活動～
10	「読むこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
11	伝統的な言語文化に関する指導
12	文字の指導，語句・語彙の指導
13	書写の指導の基本
14	書写の学習指導案の作成
15	これからの国語科教育の在り方～振り返りとまとめ～

#### 評価

毎回の小レポート（75%），最終的な論述レポート（25%）とし，総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に、小レポート（リアクションペーパー）の提出を求める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】【参考図書】教室で紹介する。

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa315		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

「算数」の上に立ち、小学校算数科の目標、内容、指導方法等を理解することをねらいにおく。

科目の概要

小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」[図形]「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法の在り方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を参考に、指導計画を作成し、実際の授業の在り方を考える。

学修目標 ( = 到達目標 )

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

内容	
1	算数科指導のポイント
2	小学校第1学年(数と計算、図形)の指導計画、指導案、その模擬授業
3	小学校第1学年(測定、データの活用)の指導計画、指導案、その模擬授業、情報機器の活用
4	小学校第2学年(数と計算、図形)の指導計画、指導案、その模擬授業
5	小学校第2学年(測定、データの活用)の指導計画、指導案、その模擬授業、情報機器の活用
6	小学校第3学年(数と計算、図形)の指導計画、指導案、その模擬授業
7	小学校第3学年(測定、データの活用)の指導計画、指導案、その模擬授業、情報機器の活用
8	小学校第4学年(数と計算、図形)の指導計画、指導案、その模擬授業
9	小学校第4学年(変化と関係、データの活用)の指導計画、指導案、その模擬授業、情報機器
10	小学校第5学年(数と計算、図形)の指導計画、指導案、その模擬授業
11	小学校第5学年(変化と関係、データの活用)の指導計画、指導案、その模擬授業、情報機器
12	小学校第6学年(数と計算、図形)の指導計画、指導案、その模擬授業
13	小学校第6学年(変化と関係、データの活用)の指導計画、指導案、その模擬授業、情報機器
14	数学的な見方・考え方の育成のための授業改善
15	振り返りとまとめ

評価

授業への参加度(取り組み)(30点)、指導計画、学習指導案、模擬授業(40点)、試験(30点)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用(紹介)していく。

## 授業外学習

### 【事前予習】

指導計画の作成、指導案の作成を行う。

### 【事後学修】

授業評価と改善点の確認を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】学力向上フロインティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び 4 - 6年実践編」明治図書

### 【参考図書】

算数教育研究協議会用テキスト 埼玉県算数数学教育研究会小学校部会

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修であり、科学の方法の基礎を学ぶ科目である。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、各回で学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業を行うとともに、授業研究・研究協議を実施する。よって、学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、教える技術を身に付ける。

学修目標 ( = 到達目標 )

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成や模擬授業の計画を通し、授業を構想することができる。エ、構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。

内容

現今の理科教育の目標は、科学的な見方考え方を育むことであり、人格形成のみならず、社会生活に不可欠な事柄である。本授業では、選択教科「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育の基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業を行う。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学ぶ。

1	ガイダンス (1)「初等理科教育法」の内容・方法 (2)模擬授業の単元や内容の検討・分担決定
2	理科が目指す教育 (1)自然を探究し科学する心を育てる教師 (2)模擬授業の指導案や教材研究
3	(1)理科教育と人間形成 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
4	(1)社会の変容と理科教育の変遷 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
5	(1)問題解決の方法と学習過程 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
6	(1)科学的思考力、知識・技術の育成 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
7	(1)理科における習得、活用、探究の過程と指導の工夫 (2)模擬授業 授業分析、研究協議
8	(1)観察・実験、情報活用を中心として授業とその導入 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
9	(1)児童の学習意欲を高める理科の教材研究 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
10	(1)子供の諸能力を伸ばす理科の評価 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
11	(1)ESD (持続可能な発展のための教育)と理科教育 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
12	(1)体験的な学習と理科授業の関連 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
13	(1)理科授業における諸課題への対応 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
14	(1)実際の理科授業と授業研究への参画 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
15	まとめ (1)理科の授業づくりに関する自己省察 (2)理科教育の目標や内容等に関する筆記試験

## 評価

観察・実験ごとの指導案、教材・ワークシート50%、模擬授業の準備・レポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】反転学習の形態を援用した授業を行う。模擬授業及び授業研究を行う単元や内容を決定し、協働して授業の準備（指導案やワークシート等の作成や予備実験を）行う。

【事後学修】模擬授業後の研究協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し、提出する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』

文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

文部科学省『小学校理科の観察，実験の手引き』（[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/senseiounen/1304651.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiounen/1304651.htm)）

国立教育政策研究所『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修であり、科学の方法の基礎を学ぶ科目である。

#### 科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、各回で学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業を行うとともに、授業研究・研究協議を実施する。よって、学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、教える技術を身に付ける。

#### 学修目標( = 到達目標)

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成現在の理科教育の目標は、科学的な見方考え方を育むことであり、人格形成のみならず、社会生活に不可欠な事柄である。

#### 内容

本授業では、選択教科「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育の基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業を行う。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学ぶ。

1	ガイダンス (1)「初等理科教育法」の内容・方法 (2)模擬授業の単元や内容の検討・分担決定
2	理科が目指す教育 (1)自然を探究し科学する心を育てる教師 (2)模擬授業の指導案や教材研究
3	(1)理科教育と人間形成 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
4	(1)社会の変容と理科教育の変遷 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
5	(1)問題解決の方法と学習過程 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
6	(1)科学的思考力、知識・技術の育成 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
7	(1)理科における習得、活用、探究の過程と指導の工夫 (2)模擬授業 授業分析、研究協議
8	(1)観察・実験、情報活用を中心として授業とその導入 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
9	(1)児童の学習意欲を高める理科の教材研究 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
10	(1)子供の諸能力を伸ばす理科の評価 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
11	(1)ESD(持続可能な発展のための教育)と理科教育 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
12	(1)体験的な学習と理科授業の関連 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
13	(1)理科授業における諸課題への対応 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
14	(1)実際の理科授業と授業研究への参画 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
15	まとめ (1)理科の授業づくりに関する自己省察 (2)理科教育の目標や内容等に関する筆記試験

## 評価

観察・実験ごとのワークシート50%、模擬授業のレポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】反転学習の携帯を援用した授業を行う。よって、次時の課題を明示する。また、本シラバスに明示した「内容」に即して、学習の計画を立て、事前準備をすること。

【事後学修】事前学習の成果を問題解決討議法等の手法を援用した授業に活かし、修得したことを資に、学習する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』

文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

文部科学省『小学校理科の観察，実験の手引き』（<http://www.mext.go.jp/>

[a\\_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm)）

国立教育政策研究所『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修であり、科学の方法の基礎を学ぶ科目である。

#### 科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、各回で学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業を行うとともに、授業研究・研究協議を実施する。よって、学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、教える技術を身に付ける。

#### 学修目標 (= 到達目標)

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成現在の理科教育の目標は、科学的な見方考え方を育むことであり、人格形成のみならず、社会生活に不可欠な事柄である。

#### 内容

本授業では、選択教科「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育の基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業を行う。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学ぶ。

1	ガイダンス (1)初等理科教育法」の内容・方法 (2)模擬授業の単元や内容の検討・分担
2	理科が目指す教育 (1)自然を探究し科学する心を育てる教師 (2)模擬授業の指導案や教材研究
3	(1)理科教育と人間形成 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
4	(1)社会の変容と理科教育の変遷 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
5	(1)問題解決の方法と学習過程 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
6	(1)科学的思考力、知識・技術の育成 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
7	(1)理科における習得、活用、探究の過程と指導の工夫 (2)模擬授業 授業分析、研究協議
8	(1)観察・実験、情報活用を中心として授業とその導入 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
9	(1)児童の学習意欲を高める理科の教材研究 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
10	(1)子供の諸能力を伸ばす理科の評価 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
11	(1)ESD (持続可能な発展のための教育)と理科教育 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
12	(1)体験的な学習と理科授業の関連 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
13	(1)理科授業における諸課題への対応 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
14	(1)実際の理科授業と授業研究への参画 (2)模擬授業 と授業分析、研究協議
15	まとめ (1)理科の授業づくりに関する自己省察 (2)理科教育の目標や内容等に関する筆記試験

## 評価

観察・実験ごとのワークシート50%、模擬授業のレポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】反転学習の携帯を援用した授業を行う。よって、次時の課題を明示する。また、本シラバスに明示した「内容」に即して、学習の計画を立て、事前準備をすること。

【事後学修】事前学習の成果を問題解決討議法等の手法を援用した授業に活かし、修得したことを資に、学習する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』

文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

文部科学省『小学校理科の観察，実験の手引き』（<http://www.mext.go.jp/>

[a\\_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm)）

国立教育政策研究所

『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年次後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科が取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、小学校の体育授業で扱う運動教材を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：発表活動の班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の進め方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表と振り返り（その1）
6	保健内容ポスター発表と振り返り（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動～実技を踏まえて
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動～実技を踏まえて
10	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について
11	学習指導案作成の基本的理解と実践（作業）
12	授業観察の方法と理解（授業評価を含む）、オリ・パラ教育の解説
13	体育内容の模擬授業と振り返り（その1）
14	体育内容の模擬授業と振り返り（その2）
15	まとめ：体育科と特別支援教育の接点を踏まえて

評価

発表活動20%、レポート40%、試験20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストおよび推薦書の自主的購読(30分)。プレゼン活動の準備と発表資料作成(2時間)。

【事後学修】授業ノートと配付資料の整理(30分)。振り返りレポート作成(1時間)。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成20年度 29年度改訂版に変更する予定)

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、

「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

### 科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年次後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

### 科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科が取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、小学校の体育授業で扱う運動教材を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

### 学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

## 内容

1	オリエンテーション：発表活動の班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の進め方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表と振り返り（その1）
6	保健内容ポスター発表と振り返り（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動～実技を踏まえて
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動～実技を踏まえて
10	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について
11	学習指導案作成の基本的理解と実践（作業）
12	授業観察の方法と理解（授業評価を含む）、オリ・パラ教育の解説
13	体育内容の模擬授業と振り返り（その1）
14	体育内容の模擬授業と振り返り（その2）
15	まとめ：体育科と特別支援教育の接点を踏まえて

## 評価

発表活動20%、レポート40%、試験20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストおよび推薦書の自主的購読(30分)。プレゼン活動の準備と発表資料作成(2時間)。

【事後学修】授業ノートと配付資料の整理(30分)。振り返りレポート作成(1時間)。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成20年度 29年度改訂版に変更する予定)

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、

「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	花房 伸恵		
ナンバリング	KBa318		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

##### 科目の概要

小学校学習指導要解を基盤として、特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

##### 学修目標

それらの知識を生かして、小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について講義や演習を通して理解・学習することをねらいとし、教育の指導力をたかめることを目指す。

#### 内容

1	「音楽」教育について (音楽と学級経営・音楽と生徒指導)
2	「教科書の発達段階の内容を探る。
3	小学校学習指導要領 音楽について
4	1年生の音楽 歌唱指導 (弾き歌いができる)
5	1年生の音楽 鍵盤ハーモニカ ・打楽器・音楽づくり
6	1年生の音楽 鑑賞指導
7	2年生の音楽 歌唱指導 (弾き歌いができる)
8	2年生の音楽 鍵盤ハーモニカ ・打楽器・音楽づくり
9	2年生の音楽 鑑賞指導
10	中学年の音楽 歌唱指導 器楽 (リコーダー指導)
11	高学年の音楽 歌唱指導 (授業見学)
12	高学年の音楽 鑑賞指導
13	授業実践 (15分の導入を考え、授業を進める)
14	授業実践 (本時の指導案を書き、授業を進める)
15	まとめ 合唱・合奏発表 (鍵盤ハーモニカ・リコーダー・その他楽器使用)

#### 評価

毎回の課題 (40%)、試験/発表 (50%)、通常の授業態度 (10%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の購読。小学校教科書の指定箇所のプレゼン活動の準備。

【事後学修】授業ノートおよび配布資料の整理。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト] 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版

[参考図書] 「音楽科指導要領 音楽編」（文部科学省） 「初等科音楽教育法」（ワキヨウパブリッシング）

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

小学校図画工作科の教科としての歴史や性格、学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、指導に必要な基礎的な技能を養います。

##### 科目の概要

小学校図画工作科について学習指導要領に基づいて目標や内容、特性について理解を深めるとともに、教材研究や演習などを通して、教科の主旨を踏まえた授業の構想と実践に関する技能を習得します。

##### 学修目標

図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とします。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	図画工作科の歴史・目的・性格，子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の授業：造形遊び
4	図画工作科の授業：造形遊び
5	図画工作科の授業：造形遊び
6	図画工作科の授業：絵に表す活動
7	図画工作科の授業：絵に表す活動
8	図画工作科の授業：立体に表す活動
9	図画工作科の授業：立体に表す活動
10	図画工作科の授業：立体に表す活動
11	図画工作科の授業：工作に表す活動
12	図画工作科の授業：工作に表す活動
13	図画工作科の授業：版に表す活動
14	図画工作科の授業：版に表す活動
15	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

#### 評価

授業を通して行ったこと，感じたこと，考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ，さらに関連したことを参考資料などをもとに加え，作成，提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。

活動への取り組み，学習態度，作品の提出（40点）。

上記を総合評価し60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】必要に応じ授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

授業内で適宜紹介

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

小学校図画工作科の教科としての歴史や性格、学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、指導に必要な基礎的な技能を養います。

##### 科目の概要

小学校図画工作科について学習指導要領に基づいて目標や内容、特性について理解を深めるとともに、教材研究や演習などを通して、教科の主旨を踏まえた授業の構想と実践に関する技能を習得します。

##### 学修目標

図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とします。

#### 内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	図画工作科の歴史・目的・性格，子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の授業：造形遊び
4	図画工作科の授業：造形遊び
5	図画工作科の授業：造形遊び
6	図画工作科の授業：絵に表す活動
7	図画工作科の授業：絵に表す活動
8	図画工作科の授業：立体に表す活動
9	図画工作科の授業：立体に表す活動
10	図画工作科の授業：立体に表す活動
11	図画工作科の授業：工作に表す活動
12	図画工作科の授業：工作に表す活動
13	図画工作科の授業：版に表す活動
14	図画工作科の授業：版に表す活動
15	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

#### 評価

授業を通して行ったこと，感じたこと，考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ，さらに関連したことを参考資料などをもとに加え，作成，提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。

活動への取り組み，学習態度，作品の提出（40点）。

上記を総合評価し60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】必要に応じ授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

授業内で適宜紹介

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	堀竹 充		
ナンバリング	KBa320		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法を学ぶ講座の1つであり、選択必修に位置づけられている。学習指導要領に示されるねらいに従い、各学年の指導内容に示された事項をどのような順で、どのような教材や指導方法によって学ばせるのか、その指導法について学修する科目である。

#### 科目の概要

小学校社会科で取り上げられている教材を、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいによって、どのように児童に学習させていくかを考えさせる。また、教材作成を通し、望ましい教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し、教材開発を深める。

#### 学修目標

社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深めると共に、それらを基に授業実践に取り組むことのできる実践的指導力を養う。

内容	
1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業の進め方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・指導に活用する資料づくり（1）
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり（2）
13	社会科の模擬授業の実際（1）
14	社会科の模擬授業の実際（2）
15	社会科の模擬授業の実際（3） ・まとめ

#### 評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】各時間に学修する社会科指導の進め方や内容について、事前に調べ確認しておく。それに  
講義やグループ活動を、毎時 1 時間

基づく

【事後学修】学習したことを毎時間、レポート等にまとめる。毎時、後半の 30 分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成 20 年 3 月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成 20 年 8 月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 児童用教科書
- ・ 教科書の教師用研究物

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBa321		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

小学校 1, 2 年の教科 生活科について学習指導要領に基づいて教科の目標や内容について理解し、教材研究や具体的な活動や体験などを通して、生活科の主旨を踏まえた授業を構想、実践できるよう内容を構成している。

科目の概要

体験的な活動を通して学ぶ生活科の指導原理について理解を深めていく。9つの内容について理解し、さらに実際の授業記録を分析し、指導者のかかわりや体験と表現を繰り返す学習過程、気づきの質などポイントを理解しながら、指導案の作成に取り組む。幼保小の学びと育ちを滑らかに接続する入学期のスタートカリキュラムのマネジメントにもふれる。

学修目標 ( = 到達目標 )

- ・生活科の指導原理、学習場面における指導者のかかわりを理解することができる。
- ・内容や取り扱いを理解し、指導計画、学習指導案を作成することができる。
- ・気づきや思考・表現など児童の認識過程を理解し、指導・支援・評価計画に取り組むことができる。
- ・幼保小の接続を図る入学時のスタートカリキュラムについて理解し、計画を作成することができる

内容

1	子どもからみた生活科の授業 教科目標 学年目標
2	生活科創設の経過と背景 新学習指導要領の改善のポイント
3	内容構成の具体的な視点 内容構成と階層性
4	内容 ( 1 ) ( 2 ) ( 3 ) 解説・教科書分析
5	内容 ( 4 ) ( 5 ) ( 6 ) ( 7 ) ( 8 ) 解説・教科書分析
6	内容 ( 9 ) 解説・教科書分析
7	授業の実際 授業分析 活動の発展と指導者のかかわり
8	授業の実際 学習指導の進め方
9	授業の実際 気づき・表現
10	指導案の作成 指導案の要素 フォーマット
11	指導案の作成 教材研究 価値ある体験や活動 評価
12	模擬授業 指導者の役割
13	指導計画の作成と内容の取扱い
14	生活科における評価、通知表における所見
15	幼保との交流・スタートカリキュラムの実際

評価

毎回の授業レポート（30％） 授業での課題レポート・課題作品（40％） 授業への参加度（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】各回の授業で扱う項目についてテキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に出席すること

【事後学修】授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深める努力する

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 日本文教出版

【推薦書】小学校生活科教科書「せいかつ」（上・下）

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング	KBa322		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教諭の免許取得に必要な必修科目である。家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達の特徴を理解し、児童の生活的な自立性や家庭生活に対する実践的な態度を培うための基礎的な知識や指導技術を学修する。

#### 科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解して、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

#### 学修目標

小学校学習指導要領を基本として家庭科の目標、内容、指導上の重要な留意点、児童の生活実態や発達課題について意識して 学ぶことにより、以下のような力を身に付けることができる。

- ・児童の生活実態を踏まえた効果的な教科経営法と指導方法とを身に付けることができる。
- ・指導に必要な基礎的技能を用いた簡単な調理とミシンを用いた製作とを行うことにより、活動や作業の指導に自信を持つことができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことによって、指導力の向上を図ることが出来る。

#### 内容

1	授業ガイダンス（授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート）
2	家庭科の学びとは何か - 学習指導要領を基に教科目標と内容、育てる資質能力を理解する
3	家庭科の授業づくり1－解説と演習－児童の実態や学習上の課題と授業設計のあり方
4	家庭科の授業作り2－解説と演習－年間指導計画・評価計画・授業づくりの要点
5	家庭科の授業作り3－演習－グループによる題材の指導計画の作成、学習指導案の書き方の理解
6	内容A（家族・家庭生活）の指導内容と指導方法
7	内容B（食生活）の指導内容と指導方法
8	内容B（衣生活）の指導内容と指導方法
9	内容C（消費・環境）の指導内容と指導方法
10	模擬授業（家族・家庭生活の題材）
11	模擬授業（食生活の題材）
12	模擬授業（調理の題材）
13	模擬授業（衣・住生活の題材）
14	模擬授業（消費・環境の題材）
15	学習のまとめ（求められる資質能力をどう育てるか）・テスト

## 評価

提出物、授業コメント、平常点40%、指導案及び模擬授業40%、試験20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。授業で示された課題図書を読む。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング	KBa322		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教諭の免許取得に必要な必修科目である。家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達の特徴を理解し、児童の生活的な自立性や家庭生活に対する実践的な態度を培うための基礎的な知識や指導技術を学修する。

#### 科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解して、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

#### 学修目標

小学校学習指導要領を基本として家庭科の目標、内容、指導上の重要な留意点、児童の生活実態や発達課題について意識して 学ぶことにより、以下のような力を身に付けることができる。

- ・児童の生活実態を踏まえた効果的な教科経営法と指導方法とを身に付けることができる。
- ・指導に必要な基礎的技能を用いた簡単な調理とミシンを用いた製作とを行うことにより、活動や作業の指導に自信を持つことができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことによって、指導力の向上を図ることが出来る。

#### 内容

1	授業ガイダンス（授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート）
2	家庭科の学びとは何か - 学習指導要領を基に教科目標と内容、育てる資質能力を理解する
3	家庭科の授業づくり1－解説と演習－児童の実態や学習上の課題と授業設計の在り方
4	家庭科における授業づくり2－解説と演習 - 年間指導計画、評価計画、授業づくりの要点
5	家庭科の授業作り3－演習－グループによる題材の指導計画の作成、学習指導案の書き方の理解
6	内容A（家族・家庭生活）の指導内容と指導方法
7	内容B（食生活）の指導内容と指導方法
8	内容B（衣生活）の指導内容と指導方法
9	内容C（消費・環境）の指導内容と指導方法）
10	模擬授業（家族・家庭生活の題材）
11	模擬授業（食生活の題材）
12	模擬授業（調理の題材）
13	模擬授業（衣生活の題材）
14	模擬授業（消費・環境の題材）
15	学習のまとめ（求められる資質能力をどう育てるか）・テスト

## 評価

提出物、授業コメント、平常点40%、指導案及び模擬授業40%、試験20%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、実習を伴った課題を出題し、レポート提出により最終評定を行う。

## 授業外学習

【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。授業で示された課題図書を読む。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

前期で、国語・算数・理科について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

### 科目の概要

小学校では、教科等により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科等について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

### 学修目標（＝到達目標）

それぞれの教科等について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科等の学習指導案作成の基本を理解する。

## 内容

小学校で学習するそれぞれの教科等の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1Aクラス：国語（富山）、算数（日出間）、理科（谷口） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1Bクラス：算数（日出間）、理科（谷口）、国語（富山） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

## 評価

小レポート（40%）、授業への取り組み（30%）、最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科等の『小学校学習指導要領解説』（ともに、平成29年告示版のもの）。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

前期で、国語・算数・理科について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

### 科目の概要

小学校では、教科等により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科等について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

### 学修目標 (= 到達目標)

それぞれの教科等について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科等の学習指導案作成の基本を理解する。

## 内容

小学校で学習するそれぞれの教科等の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1Aクラス：国語（富山）、算数（日出間）、理科（谷口） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1Bクラス：算数（日出間）、理科（谷口）、国語（富山） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

## 評価

小レポート（40%）、授業への取り組み（30%）、最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科等の『小学校学習指導要領解説』（ともに、平成29年告示版のもの）。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究 B		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、堀竹 充		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

後期で、体育・社会・道徳について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究 B」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

### 科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科の学習指導案作成の基本を理解する。

## 内容

小学校で学習するそれぞれの教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、実技を交えたり学習指導案や資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年で履修する「授業研究A・B」の基礎になる科目である。

「教材研究 B」は、以下の授業内容を2クラスで開講する。

○体育科領域：なわとび・台上前転・ボール運動 ( ティーボール・アルティメット・タグラグビー )

○社会科領域：社会科の授業と教材化 ( 3～6年生の各学習内容を題材に教材研究の方法を学ぶ )

○道徳科領域：定番の読み物教材を扱う ( 低学年：はしの上のおおかみ、中学年：絵はがきと切手、高学年：塙保己一に関する読み物資料 )

2Aクラス：社会 ( 堀竹 )、体育 ( 山本 )、道徳 ( 綾井 ) の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究 A」で1Aクラスを選択した者は基本的に2Aクラスを選択する。

2Bクラス：体育 ( 山本 )、道徳 ( 綾井 )、社会 ( 堀竹 ) の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究 A」で1Bクラスを選択した者は、基本的に2Bクラスを選択する。

## 評価

小レポート ( 40% )、授業への取り組み ( 30% )、最終レポート等 ( 30% ) とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学習】感想をまとめたり，学習した内容を授業の構想に活かしたりする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科の『小学校学習指導要領解説』。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究 B		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、堀竹 充		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。

後期で、体育・社会・道徳について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究 B」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

### 科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

それぞれの教科の学習指導案作成の基本を理解する。

## 内容

小学校で学習するそれぞれの教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、実技を交えたり学習指導案や資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年で履修する「授業研究A・B」の基礎になる科目である。

「教材研究 B」は、以下の授業内容を2クラスで開講する。

○体育科領域：なわとび・台上前転・ボール運動 ( ティーボール・アルティメット・タグラグビー )

○社会科領域：社会科の授業と教材化 ( 3～6年生の各学習内容を題材に教材研究の方法を学ぶ )

○道徳科領域：定番の読み物教材を扱う ( 低学年：はしの上のおおかみ、中学年：絵はがきと切手、高学年：塙保己一に関する読み物資料 )

2Aクラス：社会 ( 堀竹 )、体育 ( 山本 )、道徳 ( 綾井 ) の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究 A」で1Aクラスを選択した者は基本的に2Aクラスを選択する。

2Bクラス：体育 ( 山本 )、道徳 ( 綾井 )、社会 ( 堀竹 ) の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究 A」で1Bクラスを選択した者は、基本的に2Bクラスを選択する。

## 評価

小レポート ( 40% )、授業への取り組み ( 30% )、最終レポート等 ( 30% ) とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。

【事後学習】感想をまとめたり，学習した内容を授業の構想に活かしたりする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 総則編』，各教科の『小学校学習指導要領解説』。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	授業研究A		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。具体的な学習指導案の作成，模擬授業の実施等により，国語科の授業について実践的に学ぶ。

#### 科目の概要

少人数で授業を展開する。学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として，教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，学習評価，映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また，児童に取り組みせる言語活動について，学生自身が体験して理解を深めるようにする。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

国語科の指導内容・指導方法に関心を持ち，よりよい授業を構想しようとする。  
 国語科の指導と評価の在り方について理解を深め，自分なりの考えをもつ。  
 国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付ける。

#### 内容

小学校の授業づくりについて，教材研究に加え，年間指導計画や学習指導案の作成，授業の導入から展開の仕方，子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶことを意図した科目である。  
 年間30週の講義について，基本的に次のように進めていく。

前期 第1週 ガイダンス～今、求められる国語科の授業の構想～  
 第2～4週 「話すこと・聞くこと」の教材研究と学習指導案の作成  
 第5～7週 「話すこと・聞くこと」の模擬授業と省察  
 第8週 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問  
 第9～11週 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成  
 第12～14週 「読むこと」の模擬授業と省察  
 第15週 模擬授業の振り返り

後期 第1週 年間指導計画の作成と学習指導案の在り方  
 第2～4週 「書くこと」の教材研究と学習指導案の作成  
 第5～7週 「書くこと」の模擬授業と省察  
 第8週 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問  
 第9～11週 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成  
 第12～14週 「読むこと」の模擬授業と省察

## 評価

小レポートや作成物50%，模擬授業や発表活動への取組の様子50%とし，総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成などが必要）。

【事後学修】講義の後に，小レポートの提出を求める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	授業研究 A		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

算数科の授業構成を通し授業研究をすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

#### 科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究(算数)」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

小学校6年間を通した実践と理論の関係を理解し、略案だけでなく、本案を作成する。

### 内容

指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う

基礎基本を確実に身につける指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

学校間の研究協力と授業力アップの方策

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際

T Tのための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

学習カードと評価を生かした指導の実際

評価のあり方と工夫の実際

振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

### 評価

指導計画、学習指導案、模擬授業 ( 80% )、試験 ( 20% ) で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】指導計画や指導案を実際に作成する

【事後学修】模擬授業後に模擬研究協議会を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説(算数編) 東洋館出版

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 (明治図書)

科目名	授業研究 A		
担当教員名	堀竹 充、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

2 年次に学んだ「教材研究」についての理解をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

#### 科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

問題解決学習を中心とする社会・理科の 2 教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の習得、模擬授業を行なうことのできる指導技術の習得を目標とする。

#### 内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方 ( 話術、表情 )、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は 2 名の教員がオムニバス形式で担当し、前期 15 週・後期 15 週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

#### 前期 ( 授業研究 A )

- 第 1 週 : オリエンテーション
- 第 2 ~ 8 週 : 社会科に関する授業研究
- 第 9 ~ 14 週 : 理科に関する授業研究
- 第 15 週 : まとめ

#### 後期 ( 授業研究 B )

- 第 1 週 : オリエンテーション
- 第 2 ~ 7 週 : 社会科に関する授業研究
- 第 8 ~ 14 週 : 理科に関する授業研究

## 第15週：まとめ

### 評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）を各10点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

### 授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 大日本図書（平成20年度版）

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

科目名	授業研究A		
担当教員名	山本 悟、清水 玲子、名達 英詔		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは、音楽・図工・体育コースの授業の進め方について解説する。

### 科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説を加えながら総合的に学修することをめざしている。

### 学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

## 内容

前期の授業研究Aは、体育科（5回）、音楽科（5回）、図工科（5回）の順に授業を実施予定。

1	体育科：小学校体育科の授業づくりの基本を学ぶ	：山本
2	体育科：体育授業の観察と評価、体育科授業実践研究の紹介と発表活動について	：山本
3	体育科：小学校体育授業の参観と省察（学外授業の実施）	：山本
4	体育科：実技指導（器械運動等）を通して体育科の授業づくりを考える	：山本
5	体育科：体育授業実践研究に関する発表活動と振り返り、総まとめ	：山本
6	音楽科：小学校音楽科の授業づくりの基本を学ぶ	：清水
7	音楽科：歌唱指導・楽器の扱い1 簡易楽器の指導について	：清水
8	音楽科：鑑賞指導・楽器の扱い2 鍵盤ハーモニカ、リコーダーの指導について	：清水
9	音楽科：単元計画と指導案の基本・楽器の扱い3 木琴、鉄琴、ベルの指導について	：清水
10	音楽科：授業づくりを考える・観察と評価・楽器演奏 1～3の総まとめ	：清水
11	図工科：ガイダンス・図画工作科の特性を知る	：名達
12	図工科：図画工作科授業の観察から授業の要点を考える	：名達
13	図工科：図画工作科の指導案と教材研究	：名達
14	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える	：名達
15	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える	：名達

## 評価

3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」に授業への参加度（取組・関心・意欲）加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領」東京書籍（平成20年度版 29年度版に変更予定）

### 【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	授業研究 B		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。具体的な学習指導案の作成，模擬授業の実施等により，国語科の授業について実践的に学ぶ。

### 科目の概要

少人数で授業を展開する。学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として，教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，学習評価，映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また，児童に取り組みさせる言語活動について，学生自身が体験して理解を深めるようにする。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

国語科の指導内容・指導方法に関心を持ち，よりよい授業を構想しようとする。

国語科の指導と評価の在り方について理解を深め，自分なりの考えをもつ。

国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付ける。

## 内容

小学校の授業づくりについて，教材研究に加え，年間指導計画や学習指導案の作成，授業の導入から展開の仕方，子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶことを意図した科目である。

「授業研究 A」（前期）、「授業研究 B」（後期）の講義について，基本的に次のように進めていく。

前期	第 1 週	ガイダンス～今、求められる国語科の授業の構想～
( A )	第 2 ～ 4 週	「話すこと・聞くこと」の教材研究と学習指導案の作成
	第 5 ～ 7 週	「話すこと・聞くこと」の模擬授業と省察
	第 8 週	教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問
	第 9 ～ 11 週	文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成
	第 12 ～ 14 週	「読むこと」の模擬授業と省察
	第 15 週	模擬授業の振り返り

後期	第 1 週	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
( B )	第 2 ～ 4 週	「書くこと」の教材研究と学習指導案の作成
	第 5 ～ 7 週	「書くこと」の模擬授業と省察
	第 8 週	教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問
	第 9 ～ 11 週	文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成
	第 12 ～ 14 週	「読むこと」の模擬授業と省察

## 評価

小レポートや作成物50%，模擬授業や発表活動への取組の様子50%とし，総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成などが必要）。

【事後学修】講義の後に，小レポートの提出を求める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	授業研究 B		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

算数科の授業構成を通し授業研究をすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

#### 科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究(算数)」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

小学校6年間を通した実践と理論の関係を理解し、略案だけでなく、本案を作成する。

### 内容

指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う

基礎基本を確実に身につける指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

学校間の研究協力と授業力アップの方策

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際

T Tのための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

学習カードと評価を生かした指導の実際

評価のあり方と工夫の実際

振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

### 評価

指導計画、学習指導案、模擬授業 ( 80% )、試験 ( 20% ) で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】指導計画や指導案を実際に作成する

【事後学修】模擬授業後に模擬研究協議会を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説(算数編) 東洋館出版

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 (明治図書)

科目名	授業研究 B		
担当教員名	堀竹 充、谷口 正夫		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」のねらいや具体的な取組についてさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

### 科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

## 内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方(話術、表情)、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

### 前期 ( 授業研究 A )

- 第1週：オリエンテーション
- 第2～8週：社会科に関する授業研究
- 第9～14週：理科に関する授業研究
- 第15週：まとめ

### 後期 ( 授業研究 B )

- 第1週：オリエンテーション
- 第2～7週：社会科に関する授業研究
- 第8～14週：理科に関する授業研究

## 第15週：まとめ

### 評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）を各10点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

### 授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 大日本図書（平成20年度版）

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

科目名	授業研究B		
担当教員名	山本 悟、清水 玲子、宮野 周		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

### 科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは、音楽・図工・体育コースの授業の進め方について解説する。

### 科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説を加えながら総合的に学修することをめざしている。

### 学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

## 内容

後期の授業研究Bは、図工科（5回）、体育科（5回）、音楽科（5回）の順に授業を実施予定。

1	図工科：図画工作科の授業の基本と教材研究について	：宮野
2	図工科：自然素材を活用した教材研究（集める・切る）を通して授業づくりを考える	：宮野
3	図工科：自然素材を活用した教材研究（削る・結ぶ）を通して授業づくりを考える	：宮野
4	図工科：自然素材を活用した実践と授業づくりについて	：宮野
5	図工科：指導案と実際について：映像を通して授業を考える評価、まとめ	：宮野
6	体育科：小学校体育科の授業づくりの基本を学ぶ	：山本
7	体育科：体育授業の観察と評価、体育科授業実践研究の紹介と発表活動について	：山本
8	体育科：小学校体育授業の参観と省察（学外授業の実施）	：山本
9	体育科：実技指導（器械運動等）を通して体育科の授業づくりを考える	：山本
10	体育科：体育授業実践研究に関する発表活動と振り返り、総まとめ	：山本
11	音楽科：小学校音楽科の授業づくりの基本を学ぶ	：清水
12	音楽科：歌唱指導・楽器の扱い1 簡易楽器の指導について	：清水
13	音楽科：鑑賞指導・楽器の扱い2 鍵盤ハーモニカ、リコーダーの指導について	：清水
14	音楽科：単元計画と指導案の基本・楽器の扱い3 木琴、鉄琴、ベルの指導について	：清水
15	音楽科：授業づくりを考える・観察と評価・楽器演奏 1～3の総まとめ	：清水

## 評価

3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」に授業への参加度（取組・関心・意欲）加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領」東京書籍（平成20年度版 29年度版に変更予定）

### 【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	道徳教育 A		
担当教員名	綾井 桜子、大友 みどり		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つである。

##### 科目の概要

「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解するとともに、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。特に、道徳的行為を成り立たせる心情、判断力、実践意欲・態度について理解し、実際に道徳科の授業を構想し模擬授業を行うなかで、「道徳科」における指導の仕方を学ぶ。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・小学校における道徳教育と「道徳科」の果たす役割について理解し、「道徳科」の授業の在り方について考察する。
- ・「道徳科」の授業の進め方について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通して、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

#### 内容

1	道徳の本質；道徳とは【綾井】
2	道徳教育の特質 / 道徳的に行動するとは【綾井】
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容【綾井】
4	「道徳科」の成立の背景、目標、価値内容項目について【綾井】
5	考え、議論する道徳授業のために 問題解決型の道徳授業【綾井】
6	道徳の授業と教材 (資料) 分析・指導の工夫について 【大友】
7	道徳の授業と教材 (資料) 分析・指導の工夫について 【大友】
8	道徳の授業と評価のありかたについて【大友】
9	指導案の作成 ー学習指導案の作成手順【大友】
10	指導案の作成 ー学習指導案の作成【大友】
11	指導案の作成 ー学習指導案の吟味・検討【大友】
12	模擬授業 (指導案発表) 【大友】
13	模擬授業 (指導案発表) 【大友】
14	模擬授業 (指導案発表) 【大友】
15	まとめと振り返り【綾井・大友】

#### 評価

レポートおよび課題提出70点、授業への取り組み (リアクションペーパーの内容を含む) 30点の合計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、次回以降の授業時に紹介し、コメントを加えるほか、質問に答える。

#### 授業外学習

【事前準備】提出課題について、発表も含めて十分に準備する。特に、模擬授業の前には、授業以外にグループ単位で指導案を完成させるほか、事前の準備と練習が必要である。

【事後学修】『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』について、授業時に扱った箇所を熟読する。ノートのまとめを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 不要

【推薦書】 羽田積男・関川悦雄編『道徳教育の理論と方法』弘文堂、2016年。ほか、授業時に適宜紹介する。

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月）、文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成29年6月、ほか授業にて提示する。

科目名	道徳教育 B		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 情報 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

#### 科目の概要

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から実施される「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解する。あわせて、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら思考し、判断し、道徳的に行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

#### 学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と「道徳科」の授業の果たす役割について理解し、「道徳科」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳科」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容	
1	現代社会と道徳
2	道徳とは、道徳的に行動するとは / 道徳教育の特質
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容等について
4	道徳科成立の背景、目標、内容
5	学校における道徳教育のあゆみ
6	道徳科の価値内容項目についての考察
7	教材の分析について
8	学校における道徳教育の年間指導計画と道徳科の特質 ( 考え、議論する道徳 ) について
9	道徳科における指導方法と授業について ( 自我関与的な学習 )
10	道徳科における指導方法と授業について ( 問題解決的な学習 )
11	学習指導案について
12	道徳科における評価について
13	道徳性の発達について
14	モラル・ディスカッション・アプローチについて
15	まとめ

#### 評価

レポートおよび課題提出70点、授業への取り組み ( リアクションペーパーの内容を含む ) 30点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週以降の授業内にて紹介し、コメントし、質問等に答える。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく(30分)。提出課題については、発表も含めて、十分に準備する(一つの課題につき2時間程度)

【事後学修】文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省ホームページ掲載)について、授業時に扱った箇所を熟読する(30分)。ノートのまとめを行う(30分)。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】羽田積男・関川悦雄編『道徳教育の理論と方法』弘文堂、2016年。

【推薦書】授業時に適宜、紹介する。

【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領』(平成29年3月)、文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成29年7月。ほか授業時に提示する。

科目名	特別活動A		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBa327		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

#### 科目の概要

特別活動の目標や内容を理解し、望ましい集団活動を通して人間関係や自己の生き方を考え自己を生かす能力を養う様々な活動を推進すること目指している。担任としてかかわる対象児童は学級の児童はもとより全校児童までが指導の対象となることから、発達段階を踏まえた指導についても深めていく。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・特別活動の目標や内容について理解するとともに、学級活動や児童会活動、学校行事等についてなドン居ついてし、事例などに即して、説明することができる。意義や役割について具体的な事例を考察し、特別活動の果たす役割について実践的に理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童が自ら話し合い、協力して課題解決に向かう実践するための指導案を作成することができる。
- ・学級活動はもとより、児童活動や学校行事のそれぞれの特質を理解し、担任としての学級経営に資することができるよう広い視野持つことができる。

#### 内容

1	特別活動の目標 内容
2	特別活動の系譜と課題
3	特別活動の全体計画
4	学級活動 目標 内容・指導計画・内容の取扱い
5	学級活動(1) 学級や学校の生活づくり 話し合い活動の実際
6	学級活動(2) 日常の生活や学習への適応および健康安全 指導の実際
7	学級活動(2) 指導案・指導資料作成
8	学級活動(2) 模擬授業
9	児童会活動・クラブ活動 目標 内容 指導計画 内容の取扱い
10	学校行事 目標 内容 指導計画 内容の取扱い
11	学校行事 現状と課題
12	学校行事 遠足実施計画書の作成
13	特別活動と生徒指導との関連
14	特別活動と道徳・総合的な学習・生徒指導との関連
15	学級集団の育成と分析

## 評価

平常のレポート課題30% 学習参加度30% 課題提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	特別活動 B		
担当教員名	松岡 敬明、伊藤 弘嗣、梅原 哲		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教職に関する科目のうち中学校・高等学校教諭免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」に、また養護教諭免許取得に必要な「教育課程に関する科目」に当たります。いずれも、中学校・高等学校教諭及び養護教諭の免許状を取得しようとする場合は、必修になります。

科目の概要

特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標としています。学習指導要領に示された特別活動の趣旨にそった指導ができるよう、指導案作成を念頭におきながら、具体的に考察します。

学修目標 ( = 到達目標 )

- ・特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の領域ごとの特色について理解する。
- ・学級活動の授業の進め方をはじめ、学級経営について考察し、指導の在り方を理解する。
- ・領域ごとの学習指導案を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション ( 授業の進め方と学修目標 ) ( 全員 )
2	特別活動の目的と展開 ( 松岡 )
3	特別活動の指導と評価 ( 松岡 )
4	学級活動について ( 1 ) ( 梅原 )
5	学級活動について ( 2 ) ( 梅原 )
6	学級活動について ( 3 ) ( 梅原 )
7	生徒会活動について ( 1 ) ( 伊藤 )
8	生徒会活動について ( 2 ) ( 伊藤 )
9	生徒会活動について ( 3 ) ( 伊藤 )
10	学校行事について ( 1 ) ( 松岡 )
11	学校行事について ( 2 ) ( 松岡 )
12	学校行事について ( 3 ) ( 松岡 )
13	指導案の考察 ( 1 ) ( 梅原・伊藤 )
14	指導案の考察 ( 2 ) ( 梅原・伊藤 )
15	まとめ ( 松岡 )

評価

授業への参加度20%、毎時間提出する小レポート50%、指導案の作成・発表30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】小レポートの内容について、次回の授業時に受講者でシェアリングする。

#### 授業外学習

【事前準備】学習指導要領解説をよく読み、理解を深めて授業に臨む。

【事後学修】毎回の授業後に、所定のレポートを提出し、振り返りを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省)

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	教育方法A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa329		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっている。

本科目では、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考え、その原理や原則について追究するものである。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

#### 内容

以下に取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことは）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

#### 評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を90%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を予め読み、概要をまとめ、疑問点を析出します。講義に持参します。

【事後学修】講義内容を振り返り、ノートに整理します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で紹介する。

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	教育方法B		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿		
ナンバリング	KBa330		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

#### 内容

第1回：教育の方法・技術に関わる基礎概念(安達・星野)

第2回：教育方法の理論と歴史(星野)

第3回：学習理論の展開(星野)

第4回：カリキュラム開発と類型(星野)

第5回：教育評価の理論(星野)

第6回：新しい教育評価の方法(星野)

第7回：教育課程と学習指導要領(安達)

第8回：授業における教師の役割と指導技術(安達)

第9回：教授組織と学習組織(安達)

第10回：授業設計の手順と教材(安達)

第11回：教育メディアの活用(安達)

第12回：ICTを活用した授業設計(安達)

第13回：情報活用能力と情報モラルの指導(安達)

第14回：総合課題(安達)

第15回：まとめ(安達・星野)

#### 評価

1 授業ごとの課題提出 (30%)

2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る (2時間)

【事後学修】総合課題の見直し (1時間)

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

特に定めない

【参考書・推薦書】

- ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化
- ・松田稔樹他著 学習者とともに取り組む授業改善 学文社

科目名	教育方法B		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング	KBa330		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は、中高等学校の教育職員免許状（保健、保健体育、国語、情報、栄養教諭）の取得を目指す学生を対象とする。教育課程及び指導法に関する科目の内、教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）に関する科目である。中等教育において必要不可欠な教育方法理論の基礎知識と実際に関する技能修得を目的とする。特に、学校における教育活動においては、基礎的・基本的な知識・技術を修得させ、これを活用して問題を解決する教育過程を展開し、思考力や判断力、表現力を高めるとともに、主体的に学ぶ態度を養うことが求められている。よって、種々の学習理論や方法を丹念に学び、これを援用することができるような内容とする。21世紀型スキル・学力形成を具体化するための新しい教育実践を目指した教育方法を修得し、教育方法の基礎理論に基づいた授業設計や、情報化社会に対応した教育方法を用いることができるようにする。

#### 内容

教員の力量は、高い教養と優れた人格、そして確かな「教育方法」を適用・援用できる能力に依って構成される。そして、教育の「方法」とは、一定の目的を達成するための全ての手続き、全ての手段、手段の全ての結合、全ての体系であり、創造的である。この原理と方法の修得を目指す。

1	1. 教育方法を学ぶことと生涯学習（教える心理、学ぶ心理）；学習方略のガイダンス
2	2. 授業の意味と授業方法（授業の双方向コミュニケーション、授業過程の支援モデル）
3	3. 日本の教育課題と教育方法の改善（関係法規、教育観、学力観）
4	4. 科学することの価値と各教科等を貫く問題解決学習の方法
5	5. 学習形態と各教科の特質や生きる力の育成を目指す学習指導の在り方
6	6. 教育課程の編成とカリキュラムマネジメント
7	7. 授業デザイン・授業設計の手順と教材研究
8	8. 目標分析と指導に活かす評価方法
9	9. 教える技術の法則性と評価・評定の方法
10	10. 「関心・意欲・態度」の評価及び総合的な学習等の評価とその方法
11	11. 教育方法の発展史と社会の変容との関係からこれからの教育方法の研究
12	12. ICT活用授業とプログラミング教育の効果
13	13. 情報技術を活用した授業設計とその実際
14	14. 新学習指導要領の基本的な考え方とこれからの教育方法
15	15. まとめ（教育方法と教育におけるパラドックスを超える方途）

#### 評価

1 次時の課題に関する小レポートや授業時におけるワーク等の成果物・並びに課題提出（30%）

2 最終試験の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする

## 授業外学習

【事前予習】資料（テキスト）を参考として、次時の学習内容に関する情報を整理する（1時間）

【事後学修】資料（テキスト）の内容と前時までの学習や、教育概論や教育心理学等の科目の履修で得た知見と関連させ、整理し、次時の予習に反映させる（1時間）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【推薦書】

- ・『教育方法論（教職課程シリーズ改訂版）』谷田貝公昭、林邦雄、成田國英編（一藝社）
- ・『新訂「教育の方法・技術」』松平信久・横須賀 薫（教育出版）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング	KBa331		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

幼稚園教諭免許取得の必修科目である。学校教育の始まりである幼稚園教育の概要を学び、今後学修する小学校教育と一貫して見通すための基礎知識を習得する科目である。

##### 科目の概要

幼稚園教育の基本的な考え方である遊びを通した総合的な指導について理解する。その上で、具体的な幼児の遊びの姿から主体的・対話的な学びの姿を捉え、5領域のねらい及び内容との関連で理解するとともに、幼稚園教育の特性と小学校教育との接続について理解を深める。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ 幼稚園教育の基本を理解し、幼児期にふさわしい生活を展開する指導の考え方を理解する。
- ・ 幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、指導計画作成の手順や配慮点について知る。
- ・ 遊びの中の幼児の学びと幼児理解に基づく評価の考え方を知る。
- ・ 幼稚園教育と小学校教育の特性の違いと接続について理解する。

#### 内容

1	保育内容とは、 幼稚園の一日の生活
2	環境を通して行う教育、幼児期にふさわしい生活とは
3	幼児の発達を理解と発達に即した保育の在り方 ( 3 歳児 )
4	幼児の発達を理解と発達に即した保育の在り方 ( 4 歳児 )
5	幼児の発達を理解と発達に即した保育の在り方 ( 5 歳児 )
6	幼稚園教育要領に示されている各領域のねらい・内容の関係性、遊びを通しての総合的な指導
7	保育の内容・方法と幼児の経験や学びの評価 ( 健康 )
8	保育の内容・方法と幼児の経験や学びの評価 ( 人間関係 )
9	保育の内容・方法と幼児の経験や学びの評価 ( 環境 )
10	保育の内容・方法と幼児の経験や学びの評価 ( 言葉 )
11	保育の内容・方法と幼児の経験や学びの評価 ( 表現 )
12	指導計画の立案と実施・評価・改善の循環、カリキュラム・マネジメント
13	保育内容を充実させる教師の専門性
14	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、幼稚園教育と小学校教育の接続
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。  
提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

#### 授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容に関連した教科書の講読。資料検索、発表準備(1時間)

【事後学修】授業における学修のまとめ、提示する課題に関するレポート作成(1時間)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業の最初に指定する(文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年発行)

【推薦書】大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編「最新保育講座 保育内容総論」ミネルヴァ書房 岡上直子  
・高梨珪子編「保育者論」光生館

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	宮崎 信子		
ナンバリング	KBa332		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のための必修科目。保育における「環境」の重要性を理解する。

科目の概要

乳幼児期の発達を踏まえ、保育における『環境』との豊かなかかわりを育むための、幼児の視点にたった指導内容と援助の在り方について学習する。

学修目標（＝到達目標）

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
- ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想 する方法を身に付ける。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験 と、小学校以降の教科等とのつながりを理解する。

内容

1	保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい・内容について
2	子どもの発達と環境 - 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際 -
3	幼児の科学的思考の発達について
4	植物とのかかわりと保育の実際
5	生き物とのかかわりと保育の実際
6	身近な事象とのかかわりと保育の実際
7	ものとのかかわりと保育の実際
8	標識・文字等とのかかわりと保育の実際
9	数量・図形等とのかかわりと保育の実際
10	園外環境とのかかわりと保育の実際・指導案の作成
11	土・砂・水とのかかわりと保育の実際
12	日本の伝統文化・行事とのかかわり
13	指導案の作成・検討
14	環境に関わる現代的課題・保育実践の動向
15	統括

## 評価

授業の参加度 10%、授業時の課題 20%、指導案作成 30% 期末レポート 40%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

提出された課題、レポートは、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

## 授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領・保育所保育指針「環境」を読み、授業内容との関連について理解したうえで授業に臨む。翌授業の演習に必要なものを各自準備する。

【事後学修】授業を振り返り、理解できたことや今後に生かせる内容などをレポートし、翌週提出する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 幼稚園教育要領<平成29年告示>文科省 プリント配布

【参考図書】 授業で紹介

【推薦書】 センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソン著 新潮社

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング	KBa333		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許の取得のための必修科目である。「幼稚園教育要領」に示された領域「人間関係」の保育内容の展開や指導法について学ぶ。

##### 科目の概要

幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、人とかかわる力を育むため、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育のあり方を、具体的な事例の検討と演習を通して学ぶ。

##### 学修目標（＝到達目標）

幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。

幼児の発達の特性を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、保育構想に活用できる。

指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。

#### 内容

1	領域「人間関係」の全体像（ねらい、内容、内容の取扱い）
2	遊びと生活の中で育まれる人とかかわる力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
3	乳児期の発達と人とかかわる楽しさ、周囲の人との信頼関係
4	3歳児の人間関係の特徴と教師の役割
5	4歳児の人間関係の特徴と教師の役割
6	5歳児の人間関係の特徴と教師の役割
7	自我の芽生えと人への気付きの姿と教師の援助
8	規範意識の芽生え（幼児に経験させたい内容と教師の援助）
9	トラブルを通して育つ子どもの姿と教師の役割（事例検討）
10	遊びや生活の中で人とかかわる力を育てる保育実践（保育の構想と指導案作成）
11	遊びや生活の中で人とかかわる力を育てる保育実践（保育内容と指導上の留意点）
12	遊びや生活の中で人とかかわる力を育てる保育実践（保育と振り返り）
13	特別なニーズをもつ子どもへの理解と対応
14	多様性を受け止める力を育む学級経営
15	まとめ

#### 評価

授業参加度及び態度（30％）レポート（40％）筆記試験（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

#### 授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容部分（指定箇所）を講読し、自分なりの考えをもって授業に参加する。演習等で発表する場合は、その準備をする。（1時間）

【事後学修】授業で学んだ子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどのように援助するかなどについて考えをまとめる。（1時間）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】友定啓子・小田豊「保育内容 人間関係」光生館、文部科学省「幼稚園教育要領解説（平成30年発行）」

【推薦書】【参考図書】授業の中で、適宜、図書・資料を紹介する。

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa334		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり，この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容と指導法について学修する。子どもを受容し安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かってほしいとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。また，絵本の読み聞かせと「おはなし会」の計画と実施に取り組む。

学修目標

子供の言葉を育てる者として，社会における言葉や自身の言葉遣いに関心をもつ。

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。

絵本等の児童文化財について，教材研究と実践のスキルを養う。

内容

1	ガイダンス～幼児教育の目的と領域「言葉」～
2	幼児教育の基本
3	領域「言葉」の内容の整理
4	乳幼児期の言葉の発達，「ブックスタート」の本を読む
5	絵本の読み方，選び方
6	絵本の読み聞かせの基本と「おはなし会」
7	読み聞かせの実際，「おはなし会」の計画
8	「おはなし会」の計画と練習
9	「おはなし会」の実施
10	「おはなし会」の実施 と省察
11	言葉にならない表現を受け止める
12	感情表現と言葉～内言と外言～
13	文字との出会い，「園だより」の作成
14	幼稚園・保育所・小学校の連携～「スタート・カリキュラム」について知る～
15	まとめ～乳幼児の言葉と保育者の役割～

評価

毎回の小レポート及び演習等への参加状況75%、最終的な論述レポート25%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】演習を伴う内容については、事前の予習・準備が必要。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教育要領解説』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】『事例で学ぶ保育内容 領域言葉』（無藤 隆 監修，萌文書林，2,000円）

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	山本 悟、井上 由利子		
ナンバリング	KBa335		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、領域「健康」に関する専門的な知識と実践的指導力を身に付けることを目的とする。

##### 科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解する。指導法を学ぶ場として、受講者全員に模擬保育を体験させる。

##### 学修目標（＝到達目標）

- 1 幼児期の健康、生活習慣の指導に関する知識や技能を身に付ける。
- 2 幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。
- 3 健康に関する教材を具体的に作り、活用できる。

#### 内容

1	幼稚園教育要領の領域「健康」について	: 山本、井上
2	幼児期の健康的な生活について	: 井上
3	子どもの心身の発育・発達とその特性	: 井上
4	模擬保育の構想（模擬保育の進め方と指導計画立案の理解）	: 山本、井上
5	模擬保育の構想（子どもの運動遊びの理解～ワークショップ）	: 井上、山本
6	幼稚園における実際活動の解説（1）：運動遊び	: 井上
7	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
8	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
9	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
10	幼稚園における実際活動の解説（2）：健康指導 ～模擬保育の振り返り	: 井上
11	子どもの生活リズムに関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
12	子どもの保健に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
13	子どもの安全に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
14	幼稚園における実際活動の解説（3）：安全指導と避難訓練 ～模擬保育の振り返り	: 井上
15	子どもの救急法、まとめ	: 山本、井上

#### 評価

模擬保育と振り返りのレポート60%、まとめのレポート20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連した教科書の講読(30分)。模擬保育の教材準備と指導案の作成（2時間）

【事後学修】授業ノート及び配布資料の整理（30分）。振り返りレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館(平成29年度改訂版に変更予定 授業で指示する)

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBa336		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

幼児期における音楽教育の必要さと大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

### 科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

### 学修目標

個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、音楽あそびにおいては保育者が自分で考案し指導できるようになることを学修目標とする。

## 内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

### (1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3~4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

### (2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2~3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方

流れるリズムの捉え方  
縦乗りのリズムの捉え方

## 評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

## 授業外学習

- 【事前予習】課題曲3曲の楽譜を読譜し練習する。
- 【事後学修】授業内で習ったことの整理。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(キングレコード)など

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa337		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

#### 内容

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

- 1.プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い1 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 3.自然との出会い2 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 4.自然との出会い3 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 5.自然との出会い4 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 6.自然との出会い5 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える
- 15.エピローグ 全体のふりかえりと総括

## 評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

## 授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり，教科書等で確認すること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』 一藝社  
磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa337		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

#### 内容

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

- 1.プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い1 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 3.自然との出会い2 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 4.自然との出会い3 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 5.自然との出会い4 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 6.自然との出会い5 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える
- 15.エピローグ 全体のふりかえりと総括

## 評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

## 授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』 一藝社  
磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の専門科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」として開設されます。「特殊教育」から「特別支援教育」へと制度転換し、通常の学級に6.5%の割合で在籍する学習障害（LD）・注意欠陥多動性障害（AD/HD）・自閉スペクトラム症（ASD）等の児童に対し、適切かつ効果的に支援する力が教師には求められています。

##### 科目の概要

本科目では、LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学ぶとともに適切かつ効果的な指導法を身につけ、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養います。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学びます。

##### 学修目標（＝到達目標）

- ・ LD・AD/HD・ASD等の障害特性について理解する。
- ・ アセスメントにより認知特性を把握し、支援策を検討できるようにする。
- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとにした、関係機関との連携の在り方を理解する。

#### 内容

1	学習障害（LD）の理解
2	注意欠陥多動性障害（AD/HD）の理解
3	自閉スペクトラム症（ASD）の理解
4	アセスメントの基礎
5	心理アセスメント
6	読み・書きの指導
7	多層指導モデルM I M
8	算数の指導～計算する・推論する～
9	行動の指導～行動の三分割：ペアレント・トレーニングの手法を生かして～
10	社会性の指導～ソーシャル・スキル・トレーニング～
11	通常の学級における支援～学びのユニバーサルデザイン（UDL）～
12	学校における支援体制～ケース検討会～
13	学校における支援体制～個別の指導計画の作成～
14	保護者との連携・地域との連携
15	社会的自立・就労の問題・まとめ

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加態度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

#### 授業外学習

【事前準備】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】ボランティアなどの体験を通し、学修内容を教育現場で役立てまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦書】 S.E.N.S.養成セミナー特別支援教育の理論と実践 ・ ・ （第2版） 金剛出版

【参考図書】 授業の中で、その都度推薦図書を紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

この科目は、児童教育学科の専門科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」として開設されます。「特殊教育」から「特別支援教育」へと制度転換し、通常の学級に6.5%の割合で在籍する学習障害 ( LD ) ・注意欠陥多動性障害 ( AD / HD ) ・自閉スペクトラム症 ( ASD ) 等の児童に対し、適切かつ効果的に支援する力が教師には求められています。

科目の概要

本科目では、LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学ぶとともに適切かつ効果的な指導法を身につけ、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養います。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学びます。

学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ LD・AD/HD・ASD等の障害特性について理解する。
- ・ アセスメントにより認知特性を把握し、支援策を検討できるようにする。
- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとにした、関係機関との連携の在り方を理解する。

内容	
1	学習障害 ( LD ) の理解
2	注意欠陥多動性障害 ( AD / HD ) の理解
3	自閉スペクトラム症 ( ASD ) の理解
4	アセスメントの基礎
5	心理アセスメント
6	読み・書きの指導
7	多層指導モデル M I M
8	算数の指導～計算する・推論する～
9	行動の指導～行動の三分割：ペアレント・トレーニングの手法を生かして～
10	社会性の指導～ソーシャル・スキル・トレーニング～
11	通常の学級における支援～学びのユニバーサルデザイン ( U D L ) ～
12	学校における支援体制～ケース検討会～
13	学校における支援体制～個別の指導計画の作成～
14	保護者との連携・地域との連携
15	社会的自立・就労の問題・まとめ

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加態度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

#### 授業外学習

【事前準備】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】ボランティアなどの体験を通し、学修内容を教育現場で役立てまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦書】 S.E.N.S.養成セミナー特別支援教育の理論と実践 ・ ・ （第2版） 金剛出版

【参考図書】 授業の中で、その都度推薦図書を紹介します。

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa439		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害の領域別・教科別の指導、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、学習指導案を作成できるようにする。

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について理解を深めることを目的とする。また、知的障害教育の教育課程を編成する上で重要な知的障害教育の教科、各教科等を合わせた指導を中心に学習する。

知的障害の児童の学習上の特性や教育課程の特徴について理解し、特別支援学校教員としての基本的事項を習得することで、教員採用試験に対応できる知識を身に付ける。

#### 内容

- 第 1 回：知的障害教育における教育課程の意義
- 第 2 回：知的障害教育の学習指導要領の基礎・基本 その 1
- 第 3 回：知的障害教育の学習指導要領の基礎・基本 その 2
- 第 4 回：知的障害教育の教科別の指導の意義と実際
- 第 5 回：知的障害教育の教科別指導の学習指導案の作成 その 1
- 第 6 回：知的障害教育の教科別指導の学習指導案の作成 その 2
- 第 7 回：知的障害教育の教科別指導の学習指導案の作成 その 3
- 第 8 回：知的障害教育の各教科等を合わせた指導の意義と実際
- 第 9 回：知的障害教育の各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成 その 1
- 第 1 0 回：知的障害教育の各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成 その 2
- 第 1 1 回：知的障害教育の各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成 その 3
- 第 1 2 回：知的障害教育における自立活動の指導の意義と実際
- 第 1 3 回：知的障害特別支援学校の時間割の作成
- 第 1 4 回：交流及び共同学習の実際
- 第 1 5 回：知的障害教育の今後の展望

#### 評価

定期試験(80%)、小テスト・レポートの提出(10%)及び授業に対する意欲・関心・態度等(10%)とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

#### 授業外学習

【事前予習】教職課程において学んだそれぞれの学校種における教育法規、教育課程、指導法等の内容を整理しておくこと。また、知的障害を中心とした特別支援教育の基本的な事項を整理しておくこと。

【事後学修】配布資料を参考に授業内容を整理し、出された課題についてまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

科目名	肢体不自由教育課程論		
担当教員名	神山 寛		
ナンバリング	KBa440		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：「肢体不自由教育概論」で学んだ内容をベースに、さらに肢体不自由教育に関する専門的事項を学ぶ。本授業では、「自立活動」の指導内容を中心に講述する。

学修目標：1) 肢体不自由教育における教育課程と自立活動の意義について理解すること, 2) 自立活動の指導内容と具体的な対応について理解すること, 3) 肢体不自由教育における授業研究の方法について理解することの3点である。

#### 内容

1	教育課程の基礎・基本
2	肢体不自由児の学びの場と教育課程
3	自立活動の意義と指導の基本
4	健康の保持と摂食指導
5	重度重複障害児の理解と医療的ケア
6	心理的な安定
7	人間関係の形成
8	環境の把握と視知覚
9	身体の動き
10	コミュニケーション
11	自立活動の指導計画の作成と活用
12	教科指導 1
13	教科指導 2
14	教科指導 3
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度10%、2回のレポート30%、毎回のリアクションペーパー20%、最終試験40%を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

提出されたレポートは、評価を行い、翌週以降の授業内で返却する。

合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

#### 授業外学習

【事前予習】授業範囲のテキストを読んでおくこと。

【事後学修】授業で学習した内容の具体的な指導について調べ、理解を深めること。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【参考図書】「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」文部科学省、2015、海文堂出版株式会社、216円

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育課程論		
担当教員名	堂東 稔彦		
ナンバリング	KBa441		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱、虚弱に関する教育領域の科目である。

ここでは、病弱教育における教育課程について学び、他の科目での履修内容と合わせて、病弱、虚弱児に対する教育的支援について理解を深める。

##### 科目の概要

病弱教育における教育課程について、編成における基本的考え方とその手順、内容及び配慮事項等について理解する。また、教育課程の実施にあたって必要な個々の病状や教育環境に応じた個別の指導計画の作成、指導上配慮すべき点や教材・教具の創意・工夫等について理解する。

##### 学修目標（＝到達目標）

- ・病弱教育における教育課程の内容、個別の指導計画作成の手順や配慮事項等について理解する。
- ・病状や活動制限等に応じた学習活動の設定や、教材・教具の創意・工夫等の必要性を理解する。
- ・個々の実態に応じた自立活動の目標設定と内容の選定、指導方法等について理解する。

#### 内容

1	病弱教育について
2	病弱教育の現状
3	病弱教育における教育課程編成(1)
4	病弱教育における教育課程編成(2)
5	病弱教育における自立活動(1)（保育所保育指針と幼稚園教育要領）
6	病弱教育における自立活動(2)
7	病弱児の疾患と教育の実際(1)（教科指導、自立活動の指導等）
8	病弱児の疾患と教育の実際(2)（教科指導、自立活動の指導等）
9	病弱児の疾患と教育の実際(3)（教科指導、自立活動の指導等）
10	病弱児の疾患と教育の実際(4)（個別の指導計画の作成）
11	病弱教育における教科等の指導 情報機器等の活用等（教材教具の工夫）
12	重複障害を有する児重生徒の教育課程の実際
13	医療機関等、関係諸機関との連携
14	教育課程及び個別の指導計画の評価と改善
15	まとめ

#### 評価

筆記試験60%、学修目標に関するレポート30%、授業への参加度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で全体評価等を伝える。

#### 授業外学習

【事前準備】特別支援学校と小・中学校の学習指導要領について、総則、自立活動の部分を読んでおく。幼稚園教育要領、保育所保育指針も参考とするので読んでおく。シラバスを参照し、各時間または全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。

【事後学修】プリントや説明内容を再度確認して理解を深め、不明な点、は質問等により理解を図る。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業においてプリントを配布する。

参考図書等については講義内で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容（1）
4	中学校英語教育の目標と内容（2）
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業（1）
14	学習指導案と模擬授業（2）
15	まとめ

#### 評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容（1）
4	中学校英語教育の目標と内容（2）
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業（1）
14	学習指導案と模擬授業（2）
15	まとめ

#### 評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容 ( 1 )
4	中学校英語教育の目標と内容 ( 2 )
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	I C Tを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業 ( 1 )
14	学習指導案と模擬授業 ( 2 )
15	まとめ

#### 評価

(1) 平常点 ( スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等 ) 80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容（1）
4	中学校英語教育の目標と内容（2）
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業（1）
14	学習指導案と模擬授業（2）
15	まとめ

#### 評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、  
、  
と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 ( 高等学校 ) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

#### 内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

#### 評価

- (1) 平常点 ( スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等 ) 80%
- (2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

## 授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、  
、  
と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校（高等学校）で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

#### 内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

#### 評価

- (1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%
- (2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

## 授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、  
、  
と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 ( 高等学校 ) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

#### 内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

#### 評価

- (1) 平常点 ( スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等 ) 80%
- (2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、  
、  
と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 ( 高等学校 ) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

#### 内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

#### 評価

- (1) 平常点 ( スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等 ) 80%
- (2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

## 授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa342		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、  
、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

「英語教科教育法Ⅰ,Ⅱ」(2年前期後期)で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学びます。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとします。

#### 学修目標 (= 到達目標)

(i)英語科教育の理論と方法について理解し、授業の指導案を作成できる、(ii)指導案をもとに模擬授業を行い、改善点を発見し、修正することができる。

#### 内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。

1	オリエンテーション
2	公開研究授業のビデオの視聴(1)
3	公開研究授業のビデオの視聴(2)
4	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)(1)
5	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)(2)
6	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(1)
7	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(2)
8	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(3)
9	文法・語彙の指導(1)
10	文法・語彙の指導(2)
11	教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)(1)
12	教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)(2)
13	模擬授業(学生同士の授業分析と評価)(1)
14	模擬授業(学生同士の授業分析と評価)(2)
15	まとめ

#### 評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。

【事後学修】次回の模擬授業に向け、様々な指導法を含めた改善策の検討を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa442		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、  
、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

「英語教科教育法 」（2年前期・後期）及び「英語教科教育法 」（3年前期）で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにします。

#### 学修目標（=到達目標）

(i) 授業で学んださまざまな教授法を実際の模擬授業で試してみる、(ii) 模擬授業を通して自分なりの教授法を確立する。

#### 内容

- (1) 教育実習校での使用予定の教材研究を行った上で、指導案を作成し、それに基づいて50分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、協議する。
- (2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。
- (3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

#### 評価

- (1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%
- (2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】教育実習を前提に、これまで学んできた指導法をふまえ、具体的な指導案を検討する。

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行うとともに、自身の英語運用能力の向上に努める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	生徒指導・進路指導 A		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング	KBa343		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

#### 科目の概要

生徒指導は、学習指導と両輪となり、学校教育を推進する中核となるものである。しかしながら、一般的に、生徒指導上の問題にどのように対応するかに目が行きがちであり、生徒指導の本質や理念が十分に理解されているとは言いがたい。生徒指導について、正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標に関わる事項について事例や課題を通して、具体的な学びを進める。また、進路指導に関しても、主体的・対話的な深い学びとなるように、学生自らの小中学校における体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の望ましい生き方・在り方に係る指導を可能とする。

#### 学修目標

- ・ 生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を深めつつ、望ましい教育観を構築する。
- ・ 生徒指導上の諸問題について、学習形態を工夫し、問題解決を具体的に考察する。
- ・ 小学校における進路指導・キャリア教育について考察する。

#### 内容

授業では、生徒指導上の事例や課題について、自ら追究する場やグループで追究する場を設ける。また、その結果を発表することを通して、主体的で対話的な学習とする。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 授業説明。生徒指導上の体験の確認について。
2	2. 生徒指導で児童生徒につけたい力について。
3	3. 生徒指導上の問題発生時の指導について。個別指導。
4	4. 生徒指導上の問題発生時の指導について。集団指導。
5	5. 生徒指導上の問題の再発防止、予防的指導について。組織的な指導。
6	6. 健全な成長 (教育の目的) を促すための指導について。
7	7. 「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」、児童理解について。
8	8. 生徒指導を活かした、より良い授業について。
9	9. 生徒指導を活かした、授業以外の場面での指導について。
10	10. 教師による「懲戒」と「体罰」について。
11	11. いじめ問題について。
12	12. 生徒指導と進路指導の関連について。
13	13. 進路指導とキャリア教育について。
14	14. 小学校段階のキャリア教育について。

## 評価

試験60%、平常の授業の参加態度、出席日数、提出物（質問紙）、試験結果で評価する。60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】教科書の該当ページに目を通すこと。

【事後学修】本時の学習内容を復習すること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】生徒指導提要・文部科学省・教育図書株式会社

科目名	生徒指導・進路指導 B		
担当教員名	関根 郁夫		
ナンバリング	KBa344		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

教職免許法に定められた「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」として開講する。教員として不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止、キャリア教育の推進、組織的な生徒指導の在り方等について学修するとともに、自分自身の生き方を考える。

科目の概要

『生徒指導提要』『中学校 キャリア教育の手引き』を読み解き、生徒指導及び進路指導、キャリア教育を組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 教育課程における生徒指導の位置付けや生徒指導の重要性、集団指導・個別指導の方法原理、生徒指導体制と教育相談体制について、基礎的な考え方を理解している。
- 2) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解し、キャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
- 3) 『生徒指導提要』『中学校 キャリア教育の手引き』を完全に自分のものにする。

内容

教科書『生徒指導提要』『中学校 キャリア教育の手引き』をノートとして活用し、自分だけの本に作り上げる。毎回、学生自身が試験問題を作成することで、教科書の内容を身につける。個人・ペア・グループで考え、意見交換しながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス	教育課程における生徒指導の位置付け	集団指導・個別指導の方法原理
2	教科・道徳教育・総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導		
3	生徒指導体制と教育相談体制の基本的考え方と違い		
4	学級担任の指導	基本的生活習慣の確立	校内規律に関する指導の基本
5	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応		
6	教職員の責務、守秘義務と説明責任	生徒指導に関する法制度等 (校則、懲戒、体罰等)	
7	今日的な生徒指導上の課題	学校と家庭・地域・関係機関との連携	
8	生徒指導に関する事例研究レポートの発表会及び相互評価会		
9	キャリア教育の必要性と意義	キャリア教育と進路指導	
10	校内組織の整備	全体計画の作成とカリキュラム・マネジメント	
11	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動と年間指導計画		
12	家庭・地域・関係機関との連携	効果的な職場体験活動の在り方	
13	キャリア教育の評価	キャリア・カウンセリング	
14	進路指導・キャリア教育に関する事例研究レポートの発表会及び相互評価会		

**評価**

各回の振り返り（40点）、2回の事例研究レポート（10点ずつ計20点）、最終試験（40点）を総合して単位認定する。なお、評価の観点や方法については、第1回目の授業時及び必要に応じて明示する。

**授業外学習**

【事前準備】次回の授業範囲の教科書を読み、試験問題を作成してくる。

【事後学修】毎回の授業の課題を完成して提出する。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】『生徒指導提要』,文部科学省,平成22年,教育図書,298円、『中学校キャリア教育の手引き』,文部科学省,平成23年,教育出版,842円 第1回目の授業までにフジショップにて購入し、用意しておくこと

【推薦書】授業時に随時提示する。

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング	KBa145		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法について理解し、保育実践と結びつけて考える力を身に付けることを目的としている。

科目の概要

「一人一人の幼児を理解すること」の意義や重要性について、理論から学ぶ。また、幼児の行動記録やビデオ記録等の読み取りや協議を通して、幼児の発達や個と集団の関係について、家庭との連携を含めて考え、幼児を理解する方法について学ぶ。

学修目標（=到達目標）

- ・ 幼児の遊びや生活の実態に即した幼児理解の意義を理解する。
- ・ 幼児理解から発達や学びを捉える方法について理解する。
- ・ 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解する。
- ・ 幼児のつまずきや保護者への対応に関する基本的な考え方や方法について知る。

内容

1	幼児理解の意義と重要性(幼児理解の出発点としての幼児理解)
2	幼児の発達に関する課題、幼児理解のための教師の姿勢
3	一人一人の幼児の理解（3歳児の発達や学びの過程）
4	一人一人の幼児の理解（4歳児の発達や学びの過程）
5	一人一人の幼児の理解（5歳児の発達や学びの過程）
6	幼児理解の方法と記録をとることの意義・留意点
7	「自分」の世界と「友達」の世界の広がり
8	個の育ちと集団の育ちの関係
9	幼児の発達を捉える視点と様々な記録の方法
10	演習；記録の工夫と実際（保育場面の観察・記録）
11	演習；記録の工夫と実際（保育場面の観察・記録と分析・考察）
12	発表と協議；記録の読み取りから深める幼児理解と評価
13	幼児理解の積み重ねと評価、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点
14	演習；保護者の子育てに関する多様な状況とカウンセリングマインド
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、筆記試験の達成度30%とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容部分(指定箇所)の講読、課題の発見(1時間)

【事後学修】講義・協議から学んだ内容整理、課題に関するレポート作成、提出(1時間)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

【推薦書】青木久子他 「子ども理解とカウンセリングマインド」 萌文書林

科目名	教育相談 A		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KBa347		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 【科目の性格】

近年、学校現場では、不登校やいじめ、校内暴力、非行、学級崩壊など、学校・学級運営にかかわるさまざまな問題が生じている。また同時に、学校に通う子どもたちの中には発達障害や小児うつ病、心身症など発達と教育にかかわる心理学的課題を数多く抱えているものがある。

こうした事態に適切に対処するため、本講義では教育相談に必要な基本的知見を獲得し、教育相談がどのような活動であるかについての理解を深めることをねらいとする。

#### 【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。また、学校現場において、児童生徒から相談をうけた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

#### 【学修目標 (= 到達目標)】

学校教育における教育相談の重要性を認識し、学校現場において児童生徒を指導するために身につけておくべきカウンセリングに関する理論と技法などの基礎知識を習得すること。また個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や地域・社会・家庭との連携についても同時に学び習得することを目標とする。

#### 内容

以下の内容を予定している。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童の理解
4	幼児期・児童期的人格形成と適応
5	教育相談・援助の基本：カウンセリング理論
6	教育相談・援助の基本：カウンセリング技法
7	児童の行動の理解と対応 不登校
8	児童の行動の理解と対応 いじめ
9	児童の行動の理解と対応 児童虐待
10	児童の行動の理解と対応 発達障害
11	児童の行動の理解と対応 気分障害及び心身症
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

#### 評価

平常点の評価30%、試験70%により評価をおこない、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験をおこなう。

#### 授業外学習

【事前準備】予告した次回の講義内容について、関連図書などで事前学習をする

【事後学修】学習した知識の定着をおこない、実際場面での活用方法についてまとめる

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】会沢信彦・安西順子 『教師のたまごのための教育相談』北樹出版 2017

吉田圭吾著 『教師のための教育相談の技術』金子書房 2007

【参考図書】講義の中で必要に応じて適宜紹介する

科目名	教育相談 B		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング	KBa346		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

#### 科目の概要

学校現場では不登校・いじめ・校内暴力・非行・虐待・貧困・学級崩壊などさまざまな問題が生じている。学校に通う児童生徒に発達障害・引きこもり・摂食障害など発達と教育に関わる心理学的課題を数多く抱えているものがある。本講義では教育相談に必要な基本的知見の獲得、教育相談の理解を狙いとする。具体的には、教育相談に係る相談援助技術に関する諸理論、問題理解のための基礎知識や理解の仕方、実際の困難例、外部機関との連携方法などについて実践的要素を組み入れた講義を行う。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

校教育における教育相談の重要性を認識し、学校現場において児童生徒を指導するために身に付けておくべきカウンセリングに関する理論と技法等の基礎知識を習得すること、また個々の児童の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や地域・社会・家庭との連携についても学び習得することを目標とする。

#### 内容

1	教育相談とは何か。今日的課題について。
2	学校教育における「教育相談」の位置づけと役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応：不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応：いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応：発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応：非行
12	教育相談の実際 (事例から学ぶ)：校内連携
13	教育相談の実際 (事例から学ぶ)：家庭・地域との連携
14	教育相談の実際 (事例から学ぶ)：事件・事故・災害時の緊急対応
15	まとめ、

## 評価

授業中の提出物 30% 試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】事前に出された課題について調べ、教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】

学校心理士資格認定委員会 編 学校心理学ガイドブック 風間書房

石隈利紀・田村節子著 チーム援助入門 学校心理学・実践編 図書文化

科目名	<b>教育実習事前事後指導</b>		
担当教員名	富山 哲也、狩野 浩二、高岩 亜輝子、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBb348		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

#### 科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えをはじめ、学習指導案の作成の方法、実際の授業の進め方等について講義・演習を行う。また、教育実習後の学修について協議する。

#### 学修目標（＝到達目標）

教員にかかわる法規について理解する。

教育実習の意義と心構えについて学び、実践に備える。

学習指導案の作成や授業を想定した指導の在り方について学び、実践に備える。

## 内容

### 前期

- ガイダンス～教育実習の意義と心構え 【狩野】
- 介護等体験に関する説明と計画 1・2・3 【教職支援課、太田、高岩】
- 学校インターンシップの計画づくり 【富山】
- 教育実習での授業づくり（国語科 1・2） 【富山】
- 教育実習での授業づくり（算数科 1・2） 【日出間】
- 教育実習での授業づくり（社会科 1・2） 【堀竹】
- 幼稚園実習に関する説明と計画 1・2 【綾井】
- 学校インターンシップの進捗確認（合同） 【富山】
- 幼稚園実習に関する説明と計画 3 【綾井】

### 後期

- ガイダンス～4年生の経験から学ぶ～ 【狩野】
- 教育実習での授業づくり（道徳科 1・2） 【綾井】
- 教育公務員の服務について 【堀竹】
- 教育公務員の研修について 【狩野】
- 幼稚園実習に関する省察 【綾井】
- 実習中の心得（先生方、学級への関わり方） 【堀竹】
- 「教育実習日誌」の作成 【綾井】
- 実習での授業の実際（観察 参加 実習） 【富山】
- 学習指導と評価 【富山】
- 学校インターンシップのまとめと引継ぎ 【富山】

事例研究（よりよい授業づくり） 【日出間】

支援を必要とする子への対応1・2 【高岩】

まとめと振り返り 【日出間】

## 評価

毎回の提出物（30%）、試験（40%）、学習態度・積極性・発言等（30%）によって総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

## 授業外学習

【事前準備】1、2年次のインターンシップの記録を振り返っておく。

【事後学修】配布されたプリントや講義の内容をまとめて整理しておく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示

【推薦書】授業内で指示

【参考図書】授業内で指示

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	日出間 均、齋藤 忍、中西 郁、高岩 亜輝子 他		
ナンバリング	KBb449		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

小学校の教員免許を取得するためにも必修科目である。4週間の小学校現場での実習を行う。

### 科目の概要

4年次の5～6月ごろに、小学校（特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市を中心とする埼玉県および東京都などの地域を中心とする）での実習を行う。その際、学生という立場ではあるが、教員の一員としての自覚を持ち、小学生の前に立つことになる。指導教員の授業参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生徒指導や学習補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ指導教員からの講話を直接聞いたり、学習指導案を作成したりするなど、教育現場でしかできない学びをする。

### 学修目標（＝到達目標）

小学校の教員としての自覚を持ち、4週間という長期の実習期間を健康に行うことができる。

## 内容

配属校によって違いがあるが、概ね次のような流れになる。

第1週では学校現場の様子に慣れる。特に、校長より教務など学校組織における様々な役割に関する講話を受け学びを深めるとともに、配属学級の児童を知り、授業を参観する。

第2週以降は配属された学級担任の補助として、積極的に学級指導に関わる。授業の担当などが示され、準備を進めることになる。

第3週も同様な活動を進め、実際に学習指導案を書き授業を体験する。

第4週では研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業を行う。

## 評価

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究を含めた授業実践に関する能力、児童に対する態度などについて、小学校現場で指導に当たった実習校の評価及び実習日誌等の評価を加えて総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】実習のための準備

【事後学修】実習の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】【参考図書】必要に応じて指示する。

科目名	幼稚園教育実習（事前事後指導含む）		
担当教員名	綾井 桜子、松岡 敬明、狩野 浩二、山本 悟 他		
ナンバリング	KBb450		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

### 科目の概要

幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、他の幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。

### 学修目標（＝到達目標）

- ・ 幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する。
- ・ 幼稚園教諭として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付ける。
- ・ 幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する。

## 内容

### （１）事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達特性理解、観察・記録の方法と実際

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成

保育内容（指導）と評価、日誌の書き方

実習園におけるオリエンテーション（園長、実習担当の教職員等による）

### （２）総合実習

小学校教諭 1 種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は 1 週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・ 実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・ 幼児集団を指導する責任実習（部分・1回）を行う。
- ・ 実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

### （３）事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

## 幼稚園における学びの評価

### 保育における教師の役割

#### 評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象とする。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を50%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実習先の教育方針、特性の理解。提示する課題に関する事前調査、情報検索、発表準備（1時間）

【事後学修】学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成（1時間）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『新幼稚園教育要領』（平成29年告示）フレーベル館

【推薦書】幼少年教育研究所編 「新版 遊びの指導」 同文書院

全国幼児教育研究協会編 「4歳児の遊びアイデア集」 チャイルド

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

科目名	特別支援学校教育実習(事前事後指導含む)		
担当教員名	中西 郁、高岩 亜輝子、齋藤 忍		
ナンバリング	KBb451		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

## ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この授業は、教職員免許法で定める特別支援学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

### 科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習に臨む心構えをはじめ、学習指導案の作成の方法、実際の授業の進め方等について講義・演習を行う。また、教育実習後の学修について協議する。

### 学修目標( = 到達目標 )

特別支援学校の教育の実際について理解する。

教育実習の意義と心構えについて学び、実践に備える。

学習指導案の作成や授業を想定した指導の在り方について学び、実践に備える。

## 内容

### 1 事前指導( 8時限相当の時間を配当する )

- ( 1 ) 教育実習オリエンテーション
- ( 2 ) 実習時における服務、勤務の心得
- ( 3 ) 実習記録の作成
- ( 4 ) 特別支援学校の授業構成
- ( 5 ) 特別支援学校の学習指導案の作成

### 2 中間指導( 4時限相当の時間を配当する )

- ( 1 ) 実習校の児童の障害特性
- ( 2 ) 実習校の児童の障害特性に応じた学習指導案の作成

### 3 事後指導( 3時限相当の時間を配当する )

- ( 1 ) 教育実習の総括的な反省と今後の課題

## 評価

毎回の課題等の提出物( 30% )、試験( 40% )、学習態度・積極性・発言等( 30% )によって総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題、レポート等は、次回の授業内で活用・評価していく。

## 授業外学習

**【事前準備】**

- ・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の「第2章各教科」の内容を熟読しておくこと。

**【事後学修】**

- ・授業担当教員に作成した学習指導案を提出し、添削を受けること。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

**【教科書】**「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

**【推薦書】** 授業内で必要な書籍等を紹介します。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBb352		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、英語科教育法 ~ 及び教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

### 科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって、具体的に事前・中間・事後指導を行う。

### 学修目標（=到達目標）

参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指す者としての責任を自覚させ、実際の授業実践能力の向上を図ることをねらいとする。

## 内容

### 1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

### 2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

### 3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

## 評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートのシェアリングを行う。

## 授業外学習

【事前準備】模擬授業の教材研究・指導案作成・教材作成等

【事後学修】模擬授業の指導を受け、指導案等の修正を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 外国語編

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBb352		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳや教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

### 科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

### 学修目標（＝到達目標）

この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

## 内容

### 1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

### 2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

### 3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

## 評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

- 【事前予習】授業の教案作成・教材作成（最低2時間）
- 【事後学修】授業のコメントを受け、教案を修正する（最低30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校の指示に従い、該当する教科用図書等を事前に手に入れておく。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名			
ナンバリング	KBb453		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）前期実習（選択）である。

#### 科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

#### 学修目標（＝到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用してし、教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。

#### 内容

協力校における3週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法に加えて、特別活動等を通じて学級経営の在り方についても、実践的に学ぶ。

#### 評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備(2時間以上)

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備（2時間以上）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBb454		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用してし、教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備（2時間以上）

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備（2時間以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

科目名	教職実践演習（幼・小・中・高）		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、狩野 浩二、宮川 保之 他		
ナンバリング	KBb555		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

「教職実践演習」は、教職員免許法に定められた必修科目である。教職課程の他の授業科目の履修や学校ボランティア等の様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて省察する。このことによって、教員になる上で、何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにする科目である。

##### 科目の概要

学校教育の具体的な課題や教育の最新事情と学校が抱える課題を取り上げ、集団討議法や事例研究等を活用しながら授業を展開し、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組みせる。

##### 学修目標（＝到達目標）

- ・教職の意義や教員の役割、職務内容、子供に対する責務等を理解し、遂行できるようになる。
- ・教員組織における役割分担や教職員が協力して校務運営に携わる方法を理解し、自己発揮する資質を高める。
- ・個々の子供の特性や状況を把握し、学級集団を維持し機能を発揮する手立てを身につける。
- ・教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり等、指導方法の資質を高める。

#### 内容

教職実践演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。よって、授業は、講義・演習を通じて、理論と実践を有機的に統合できるようワークショップ形式等の実践的な形式で展開する（外部講師の専門的指導も含める）。そして、教職生活をより円滑にスタートできるように、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情等や、対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営、教科・保育内容等の指導力に関する事項について、自己省察し、必要な資質・能力をさらに高めていく。

1	(1) 教職実践演習のねらいと内容の理解 (2) 教育応用実習での学びと省察	: 山本、狩野
2	新学習指導要領とこれからの学校教育について	: 宮川、松岡
3	新しい授業づくり（アクティブ・ラーニング、プログラミング教育）	: 富山、星野
4	授業研究、教材研究、指導法特講（受講者の模擬授業と振り返り）	: 富山、久保田
5	授業研究、教材研究、指導法特講（新しい指導法と授業づくりを学ぶ）	: 学外講師、山本
6	教員としてのキャリア教育	: 狩野、山本、綾井
7	保健安全指導について（アレルギー問題、アライキショック）	: 齋藤麗子、山本
8	学校行事と安全指導について（災害、不審者対応、他）	: 日出間、堀竹
9	学級経営、生徒指導、保護者対応（地域社会を含む）について	: 堀竹、日出間
10	教師に求められる資質・能力と教職の再考	: 外部講師、狩野
11	教育の最新事情と学校の実情（総合的学習の時間、特別活動を中心に）	: 星野、日出間
12	教育の最新事情と学校の実情（特別支援教育及び幼小連携を中心に）	: 中西、高岩、齋藤忍
13	教育の最新事情と学校の実情（道徳及び英語教育を中心に）	: 綾井、松岡

14	学習指導の評価と評定および授業改善の方策に向けて : 狩野、富山
15	まとめ「子供観や教育観について、授業を振り返り論述する」 : 山本、狩野

## 評価

授業への参加度(取組、関心意欲、態度) : 40点、教育応用実習の振り返りレポート : 20点、小学校公開研究会参加レポート : 20点、授業のまとめレポート : 20点として、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前時に事前課題を提示する。課題に関連した資料収集し事前学習を進める(30分)。

【事後学修】毎回の講義記録をノート等に整理する(30分)。課題に指定した小レポートを作成する(1時間)。大学周辺の小学校で開催される公開研究会に参加し、レポートを作成する(2時間)。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】新小学校学習指導要領(29年度版)、総則編 ~詳細は授業で指示する。

【参考図書】各回で参考となる資料の配布及び参考図書を提示する。

科目名	国語		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBc256		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教諭一種，幼稚園教諭一種免許を取得するための必修科目である。

#### 科目の概要

主体的な思考・判断・表現の基盤となる国語の能力の育成を目標とする。内容は，小学校学習指導要領国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」（新学習指導要領の〔知識及び技能〕）の枠組みを基本としながら，日常生活・社会生活における具体的な表現活動を通して内容の理解を深めることをねらいとする。

#### 学修目標（＝到達目標）

国語に関心をもち，自らの考えを積極的に表現しようとする。

表現活動に取り組む中で，国語についての認識を深める。

国語に関する基礎的な知識を実践を通して身に付ける。

#### 内容

1	ガイダンス～言葉の特徴やきまりについて考える～
2	文字とその指導（平仮名，片仮名，ローマ字），学習指導要領の見方
3	文字とその指導（漢字）
4	語句，語彙とその指導
5	ことわざ，慣用句，故事成語とその指導
6	文字による表現の実際～新聞を作る～
7	文字による表現の実際～新聞を作る～
8	言葉遣い（敬語）とその指導
9	伝統的な言語文化とその指導～日本の古典，漢詩・漢文，故事成語～
10	音読，朗読，暗唱に関する指導～古典の暗唱～
11	書写の指導～平仮名の基本～
12	言葉のきまりとその指導～主語・述語，修飾語・被修飾語～
13	本，読書に関する基礎知識と指導～持参した本を紹介する～
14	絵本の基礎知識～絵本の価値と読み聞かせ～
15	まとめ～言葉の特徴や使い方，我が国の言語文化（〔知識及び技能〕）の内容を振り返る～

#### 評価

毎回の小レポート75%，最終的な論述レポート25%とし，総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】講義の中で紹介する。

【参考図書】講義の中で紹介する。

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	Kbc257		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、次の「初等算数科教育」の基礎とする。

### 科目の概要

低学年から高学年の学年進行にしたがって、段階的に高度になる指導の系統を考察する。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

- 算数に関心をもち、算数科の学びの基本について理解する。
- 算数科の指導内容や指導方法について、領域毎に考察していく。
- 算数に関する基礎的な知識について、実践を通して身に付ける。

## 内容

1	ガイダンス。～算数を学ぶ価値について考える～
2	算数科の小学校学習指導要領の見方
3	「数と計算」領域における教材と授業づくり ( 下学年 )
4	「数と計算」領域における教材と授業づくり ( 上学年 )
5	「図形」数と計算」領域における教材と授業づくり
6	「測定」領域における教材と授業づくり
7	「変化と関係」領域における教材と授業づくり
8	「データの活用」領域における教材と授業づくり
9	算数科における主体的な学びとは？
10	算数科における対話的な学びとは？
11	算数科における深い学びとは？
12	数学的活動を通した算数の学び ( 低学年 )
13	数学的活動を通した算数の学び ( 中学年 )
14	数学的活動を通した算数の学び ( 高学年 )
15	振り返りとまとめ～算数科の本質を探る～

## 評価

小レポート ( 平常点 )、授業への参加態度 ( 取り組み ) ( 60% )、試験 ( 40% ) で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用 ( 紹介 ) していく。

## 授業外学習

【事前準備】教師としての数学的思考力・問題解決力育成の小テストを自力で実行し、みんなでの練り上げ前に自分の解決をまとめる。

【事後学修】小テストで他者の考えに触れ、比較し、自分の解決を振り返える。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子、久保田 葉子、棚谷 祐一		
ナンバリング	KBC258		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

音楽の役割を考えながら、日本の音楽と世界の音楽について学ぶ。また小学校教科書に掲載されている音楽を始め、さまざまな音楽に触れ、この芸術が人間にとってどのように影響を与えるかなどを考察する。

### 科目の概要

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で音楽を楽しみ、日本・世界の音楽、またピアノ音楽も取り上げ講義を行う。実際に歌う・鑑賞をするなどを通して、情操教育の大切さを確認する。また音楽の基礎知識も学ぶ。

### 学修目標

いろいろな音楽を学ぶことにより、芸術としての音楽のとらえ方、日常生活に上手にとり入れていく方法、音楽と心の関係、現代社会におけるストレス解消など、生涯学習としての音楽の役割も考察することを目標とする。

## 内容

主に、毎回10分ぐらい音楽の基礎知識・楽典などの講義も行う。

1	ガイダンス 自分を取りまく音楽について（清水）
2	音楽の役割について（清水）
3	日本の音楽の歴史 ～子どもの歌・文部省唱歌から見る～（清水）
4	日本の音楽の歴史 ～映像から見る～（清水）
5	日本の合唱曲について（清水）
6	世界の音楽について アジア・オセアニア・中東（棚谷）
7	世界の音楽について アフリカ・ヨーロッパ・アメリカ大陸（棚谷）
8	ポピュラー音楽の歴史（棚谷）
9	楽器について 管楽器・弦楽器・打楽器およびそれらのアンサンブル（棚谷）
10	楽器について 電気楽器・電子楽器その他（棚谷）
11	ピアノから見る音楽史 バロック・古典（久保田）
12	ピアノから見る音楽史 ロマン派・近代（久保田）
13	ピアノから見る音楽史 現代（久保田）
14	鑑賞について（久保田）
15	まとめ（久保田）

## 評価

毎回ごとの課題レポート（70%）、通常の授業態度（30%）と、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業で扱う音楽の視聴

【事後学修】授業ノートおよび配布資料の整理

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、テキスト・プリントCDを使用し、授業で紹介していく。

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担います。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものでしょうか。

##### 科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得します。

##### 学修目標

様々な材料体験や表現・鑑賞を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

#### 内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：新聞紙
5	身近にある材料を使った表現：新聞紙
6	様々な描画材料を使った表現：絵の具等
7	様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等
8	様々な描画材料を使った表現：複合材
9	身近にある材料を使った表現：自然材
10	身近にある材料を使った表現：人工材
11	粘土を使った表現：土ねんど
12	粘土を使った表現：合成粘土
13	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等
14	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等
15	まとめ：図画工作について考える

#### 評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。

活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。

上記を総合評価し60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】必要に応じ，授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜紹介

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	Kbc259		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担います。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものでしょうか。

科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得します。

学修目標

様々な材料体験や表現・鑑賞を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容	
1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：新聞紙
5	身近にある材料を使った表現：新聞紙
6	様々な描画材料を使った表現：絵の具等
7	様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等
8	様々な描画材料を使った表現：複合材
9	身近にある材料を使った表現：自然材
10	身近にある材料を使った表現：人工材
11	粘土を使った表現：土ねんど
12	粘土を使った表現：合成粘土
13	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等
14	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等
15	まとめ：図画工作について考える

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ (60点)。

活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40点)。

上記を総合評価し60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】必要に応じ，授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜紹介

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBc260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）	: 山本
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
4	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）	: 山本
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
6	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
7	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
8	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
9	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
10	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）	: 山本
11	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
12	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
15	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）	: 佐藤

評価

授業への参加度（運動への取組、協働性）60%、模擬授業の発表およびレポート40%として、総合評価60点以上

を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストおよび推薦書の自主的講読(30分)。発表活動の準備と学習指導案の作成(90分)。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理(30分)。模擬授業振り返りレポート等の作成(発表担当者:30分、その他受講学生:2時間)。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成20年度 29年度改訂版に変更予定)

【推薦書】高橋健夫、他編著「すべての子どもが必ずできる 体育の基本」 学研教育みらい

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBc260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

#### 科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

#### 学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容			
1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践		: 山本、佐藤
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）		: 佐藤
3	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）		: 佐藤
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）		: 佐藤
5	表現運動（創作活動と発表会）		: 佐藤
6	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走：跳び方のコツを探る）		: 山本
7	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走：チーム対抗の競走）		: 山本
8	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）		: 山本
9	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）		: 山本
10	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）		: 佐藤
11	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）		: 佐藤
12	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）		: 佐藤
13	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）		: 山本
14	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）		: 山本
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）		: 山本

#### 評価

授業への参加度（運動への取組、協働性）60%、模擬授業の発表およびレポート40%として、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストおよび推薦書の自主的講読(30分)。発表活動の準備と学習指導案の作成(90分)。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理(30分)。模擬授業振り返りレポート等の作成(発表担当者：30分、その他受講学生：2時間)。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社(平成20年度 29年度改訂版に変更予定)

【推薦書】高橋健夫、他編著 「すべての子どもが必ずできる 体育の基本」 学研教育みらい

科目名	社会		
担当教員名	堀竹 充		
ナンバリング	KBc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「社会」が、学校教育の中で、どのような分野について学ぶのかや社会科学習が担っている教育的役割を知り、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と3分野に分かれるが、各分野で取り上げられる内容（学習の具体的な内容や学習活動）について事例的に取り上げ、その内容について理解を深めさせると共に、身に付けるべき資質・能力・態度について考察する。

社会科における思考力・判断力・表現力を高めるための資料の取扱いや活用方法について具体的に学ばせると共に、教師の身に付けるべき指導力の具体的な内容について関心を深めさせる。

学修目標

小学校教育における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。また、学習した内容について、自分なりのとらえ方や考え方を深めることができ、社会的事象に対する関心を高めることができる。

内容

- 1 ガイダンス：社会科を学ぶ目的とその役割
- 2 次期学習指導要領の改訂の要点と身に付けさせるべき資質・能力・態度
- 3 中学年社会科の学習内容 3 学年
- 4 中学年社会科の学習内容 4 学年
- 5 高学年社会科の学習内容 5 学年
- 6 高学年社会科の学習内容 5 学年
- 7 社会科学習における地理的内容について
- 8 社会科学習における図表の活用（1）について 地図の見方・活用の仕方
- 9 社会科学習における図表の活用（2）について 地形図の活用の仕方
- 10 社会科学習における歴史的内容の理解
- 11 社会科学習における公民的内容の理解
- 12 社会科学習活動の具体的な事例（1）
- 13 社会科学習の具体的な事例（2）
- 14 社会科学習で身に付けたい資質・能力・態度
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、とし総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代を代表する人物の主な事績をそれぞれの授業内容に合わせて予習し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容をまとめ、学習内容について自分の考えをまとめる。

（毎時間30分）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

##### 【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	生活		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBc262		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「遊び」や「身近な生活」を通して学ぶ生活科は幼児期の教育と極めて密接な関係をもっている。幼児期の遊びの発達段階を理解しつつ遊びの中ではぐくまれていくちからにも視点をあて、体験や具体的な活動を通して資質・能力を育てる指導者のかかわりを理解する。

科目の概要

幼児期における遊びの価値や発達段階を学んだり、身近な自然や社会とのかかわりでもある遊ぶおもちゃを作ったり、表現活動を工夫したりして体験を通して学ぶ学習過程を理解する。

学修目標（＝到達目標）

- ・生活科における遊びや体験の価値についてさまざまな資料から理解することができる。
- ・体験したことを表現する多様な方法のあることを理解し、適切な活用を考えることができる
- ・主体的な学習を促す環境の構成や学習材の吟味などを通して、質の高い気づきが生まれるような学習環境を考えることができる。

内容

1	身近な自然 「春」 私の「木」
2	観察・表現・気づき
3	子どもの空間認識
4	私の子ども時代～ひと・もの・こと 地図による表現
5	子ども時代における体験の価値
6	遊びが育てる力 映像による遊び分析
7	私を育てたまちの紹介 プレゼンテーション
8	身近な素材で遊ぶ 素材の特性と質の高い遊び
9	観察・表現・気づき
10	「うごくおもちゃを作って遊ぼう」
11	絵本を作るう
12	身近な自然 「夏」 私の「木」
13	観察・表現・気づき
14	おもちゃの絵本でブックトーク
15	幼稚園との互惠性のある交流・連携

評価

毎回の授業レポート（30％） 授業での課題レポート、課題作品（50％） 授業への参加度（20％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】各回で扱う内容について、テキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に臨むこと

【事後学修】授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深める努力をすること 課題の提出を忘れないこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省 日本文教出版

科目名	理科		
担当教員名	宮川 保之、谷口 正夫		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

専門科目のうち、教科に関する科目「理科」(選択科目)であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」(「必修」)の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。よって、本科目を履修することが望ましい。

科目の概要

「理科」は、様々な事象を「科学的に観ることや、科学的に考える」ことを通して、思考力や表現力等を身に付けることを目指している。この「理科」の目標である「科学的な見方考え方」が出来る子供を育てるために、理科を学ぶとはどのようなことかを 観察や実験を通して体験的に学ぶ内容とし、教養ある人として生きる力を身に付ける。

特に、本授業では、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにし、学んで楽しい内容である。

学修目標 (= 到達目標)

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成、模擬授業を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにする。

1	ガイダンス	理科教育の目的	科学する心を育てるといったことはどのようなことか
2	観察・実験の方法	秋の植物の継続的な観察と記録	生物と無生物 自然と科学
3	生物の構造と機能	植物や動物(人体のつくりと働き)の生命維持	
4	生物の多様性と共通性	植物・動物の成長と運動	
5	生命の連続性と環境との関わり	植物の発芽成長(継続観察)	
6	秋の植物観察の結果の発表		
7	実験	ア、粒子の存在	イ、空気・水の性質
8	実験	ア、粒子の結合	イ、燃焼の仕組み
9	実験	ア、粒子の保存	イ、物の重さ・物の溶け方、水溶液の性質
10	実験	ア、エネルギー	イ、風邪やゴムの働き、光の性質
11	実験	ア、磁石の性質	イ、振り子の運動 ウ、てこの働き
12	実験	ア、エネルギーの変換と保存	イ、電気の性質と働き ウ、電気の利用
13	実験	ア、地球の成り立ち	イ、持続可能な開発(ESD)と環境問題
14	理科学習指導案の作成と理科授業の構想 理科を学ぶことのよさをどのように伝えるか		
15	まとめ	理科好きの子供を育てる授業と実践	理科の学びを深める方途

評価

実験毎のワークシート30%，観察・実験のレポート等40%，筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】反転学習の授業形態とする。継続的な観察などを行い、記録をする。

【事後学修】学習したことをもとに、授業や観察・実験等の構想を練り、ノートを作る。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】日置光久他編著『シリーズ日本型理科教育 1～5』東洋館出版社刊

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

科目名	理科		
担当教員名	宮川 保之、谷口 正夫		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

専門科目のうち、教科に関する科目「理科」(選択科目)であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」(「必修」)の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。よって、本科目を履修することが望ましい。

科目の概要

「理科」は、様々な事象を「科学的に観ることや、科学的に考える」ことを通して、思考力や表現力等を身に付けることを目指している。この「理科」の目標である「科学的な見方考え方」が出来る子供を育てるために、理科を学ぶとはどのようなことかを 観察や実験を通して体験的に学ぶ内容とし、教養ある人として生きる力を身に付ける。

特に、本授業では、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにし、学んで楽しい内容である。

学修目標 (= 到達目標)

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成、模擬授業を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるようにする。

1	ガイダンス	理科教育の目的	科学する心を育てるといったことはどのようなことか
2	観察・実験の方法	秋の植物の継続的な観察と記録	生物と無生物 自然と科学
3	生物の構造と機能	植物や動物(人体のつくりと働き)の生命維持	
4	生物の多様性と共通性	植物・動物の成長と運動	
5	生命の連続性と環境との関わり	植物の発芽成長(継続観察)	
6	秋の植物観察の結果の発表		
7	実験	ア、粒子の存在	イ、空気・水の性質
8	実験	ア、粒子の結合	イ、燃焼の仕組み
9	実験	ア、粒子の保存	イ、物の重さ・物の溶け方、水溶液の性質
10	実験	ア、エネルギー	イ、風邪やゴムの働き、光の性質
11	実験	ア、磁石の性質	イ、振り子の運動 ウ、てこの働き
12	実験	ア、エネルギーの変換と保存	イ、電気の性質と働き ウ、電気の利用
13	実験	ア、地球の成り立ち	イ、持続可能な開発(ESD)と環境問題
14	理科学習指導案の作成と理科授業の構想 理科を学ぶことのよさをどのように伝えるか		
15	まとめ	理科好きの子供を育てる授業と実践	理科の学びを深める方途

評価

実験毎のワークシート30%，観察・実験のレポート等40%，筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】反転学習の授業形態とする。継続的な観察などを行い、記録する。

【事後学修】学習したことをもとに、授業や観察・実験等の構想を練り、ノートをつくる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】日置光久他編著『シリーズ日本型理科教育 1～5』東洋館出版社刊

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』

科目名	家庭		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング	KBc264		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

小学校教諭免許状を取得するための科目である。

##### 科目の概要

小学校における「家庭」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、家庭科に関連する背景的な知識を身に付ける。

##### 学修目標（＝到達目標）

小学校における「家庭」の授業を担当するために必要な実践的な知識・技能を、授業場面を意識しながら身に付ける。

特に、小学校学習指導要領解説家庭編に示されている内容の取扱いと指導上の配慮事項および実習の指導について具体例から学び、子どもたちが生活をよりよくしようと工夫する資質・能力をどのように育成するか理解する。

#### 内容

1	ガイダンス、家庭科の目標と内容構成
2	空間軸・時間軸の視点からとらえる家庭科の学習対象
3	A「家族・家庭生活」の学習内容 - 自分の成長・家庭生活と家族の大切さ -
4	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 食事の役割 -
5	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 調理の基礎・留意点と配慮点 -
6	B「衣食住の生活（食生活）」の実習 - ゆでる調理といためる調理 -
7	B「衣食住の生活（食生活）」の実習 - 米飯とみそ汁の調理 -
8	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 栄養を考えた食事 -
9	B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 - 衣服の着用と手入れ -
10	B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 - 布を用いた製作 -
11	B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 - 手縫いの技能・ミシン縫いとの比較 -
12	B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 - ミシン縫いの技能・留意点と配慮点 -
13	B「衣食住の生活（住生活）」の学習内容 - 健康・快適・安全な住まい方の工夫 -
14	C「消費生活・環境」の学習内容 - 持続可能な社会の構築に向けた消費生活と環境 -
15	A「家族・家庭生活」及びC「消費生活・環境」の学習内容 - 小・中学校の系統性 - , まとめ

#### 評価

授業への積極的参加（持ち物〔エプロン、三角巾、食器用ふきん、手拭きタオル、調理実習室用上履き、糸きりばさみ〕の用意を含む）：30% 課題論述レポート（知識・理解・論述・表現）：40% 調理および被服製作の技能：30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

##### 【事前準備】

・教科書のうち、次時の内容にあたる箇所を読む。次時に必要な学習用具をそろえる。

**【事後学修】**

・学習内容をふり返り、理解を深める。実生活の中で技能を高める。

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

**【参考図書】**・文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2017

・『新編 新しい家庭5・6』東京書籍、2015

・『小学校わたしたちの家庭科5・6』開隆堂出版、2015

・流田直他『家庭科の基本』学研教育みらい、2012

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	高岩 亜輝子		
ナンバリング	KBC266		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

##### 科目の概要

ヒトの知的活動に関わる神経メカニズムについて解説し、脳損傷によって生じるさまざまな知的障害との関連について知識を深める。さらに、知的機能を評価する方法を学び、教育的支援等に展開するための基礎を養う。

##### 学修目標

知的障害に関する脳機能および心理学的な特徴を知り、知的障害(児)者の教育や支援に役立てる知識を習得する。

#### 内容

- 第1回 知的障害の概要
- 第2回 中枢神経系の解剖
- 第3回 中枢神経系の機能
- 第4回 知的障害が生じる疾患
- 第5回 脳と言語
- 第6回 知的障害と言語
- 第7回 脳と記憶
- 第8回 知的障害と記憶
- 第9回 脳と知覚
- 第10回 知的障害と知覚
- 第11回 脳と社会的コミュニケーション
- 第12回 知的障害と社会的コミュニケーション
- 第13回 知能と発達
- 第14回 知能検査・発達検査
- 第15回 まとめ

#### 評価

レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(40点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問や質問については次回の授業時にフィードバックを行なう。

#### 授業外学習

【事前予習】 知的障害に関連する文献等を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料とノートは整理し、読み返して理解しておく。また、自分自身の卒業研究を意識して

、資料を集め整理しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業の中で適宜紹介する。

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	高岩 亜輝子		
ナンバリング	KBc267		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

##### 科目の概要

身体に障害を持つ乳児、児童・生徒、成人を対象として、生理的、病理的、心理的な特徴を学び、教育的支援や社会的支援について理解を深める。

##### 学修目標

肢体不自由に関する医学的および心理学的な特徴を知り、教育や療育、リハビリテーションの場で肢体不自由(児)者の支援に役立てる知識と技能を習得する。

#### 内容

- 第1回 肢体不自由の概要
- 第2回 肢体不自由の生理 生理学的側面の理解
- 第3回 肢体不自由の生理 運動のしくみ 骨・関節
- 第4回 肢体不自由の生理 運動のしくみ 筋
- 第5回 肢体不自由の生理 運動の発達
- 第6回 肢体不自由の病理 病理学的側面の理解
- 第7回 肢体不自由の病理 筋ジストロフィー
- 第8回 肢体不自由の病理 脳性麻痺
- 第9回 肢体不自由の病理 二分脊椎・水頭症
- 第10回 肢体不自由の病理 神経疾患
- 第11回 肢体不自由の心理 心理学的側面の理解
- 第12回 肢体不自由の心理 発達に与える影響
- 第13回 肢体不自由の心理 言語・認知・知能の発達
- 第14回 肢体不自由の心理 医療と福祉と教育
- 第15回 全体総括

#### 評価

レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(40点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問や質問については次回の授業時にフィードバックを行なう。

#### 授業外学習

【事前予習】 肢体不自由に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとに復習し、ノートを整理しておく。また、自分自身の卒業研究を意識して、資料を集め整理しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業の中で適宜紹介する。

科目名	<b>病弱の心理・生理・病理</b>		
担当教員名	高岩 亜輝子		
ナンバリング	Kbc268		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

#### 科目の概要

健康、病気、障害、死という日常生活の営みを理解し、疾病により人体が受ける生理学的、病理学的、心理学的変化について学習する。

#### 学修目標

病気や障害がある人に関して医学的および心理学的な側面の理解を深め、それらを認識して適切な支援に役立てる知識を習得する。

### 内容

第1回 健康、病気、障害の概念とICF国際生活機能分類

第2回 生理 人体の構造(1)

第3回 生理 人体の構造(2)

第4回 生理 人体の機能(1)

第5回 生理 人体の機能(2)

第6回 病理 循環器疾患

第7回 病理 呼吸器疾患

第8回 病理 腎・泌尿器疾患

第9回 病理 内分泌疾患

第10回 病理 消化器疾患

第11回 病理 脳神経疾患

第12回 病理 悪性生物

第13回 病理 精神疾患

第14回 心理 病気・障害の受容

第15回 心理 ターミナル期の心理

### 評価

レポートによる評価(20%)、リアクションペーパーによる評価(40点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問質問については次回の授業時にフィードバックをする。

### 授業外学習

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとに復習し、ノートを整理しておく。また、自分自身の卒業研究を意識して、資料を集め、整理しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	小林 路子		
ナンバリング	KBd368		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教育課程の展開に寄与するため、学校図書館をどのように活用するか。学習指導要領の改訂に伴い、学校図書館活用はどの教科でも授業改善のポイントとなっている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要であり、そのための具体的な指導方法や手法を学ぶ。

#### 科目の概要

日々の教科の学習で、国語科だけでなく、子供たちの主体的、探究的に学ぶ力や読書力を育成するため、授業で学校図書館を活用する様々な手法やスキルを具体的に学ぶ。各教科の目標を達成するための学校図書館活用の具体的事例を学ぶ。

#### 学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 情報活用能力の育成を図るスキルを学ぶ。
- 3) 授業の展開に寄与できる学校図書館メディアの活用方法を学ぶ。
- 4) 児童生徒の展開方法を理解する。

#### 内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	これからの学校図書館活用と新学習指導要領
3	脳科学と読書活動、特別支援教育のありかた。
4	学校図書館を教科の授業で活用する (読書活動事例紹介)
5	教科の授業で活用するテーマブックトーク作り (グループ活動)
6	教科の授業で活用するテーマブックトーク作り (発表)
7	学校図書館を教科の授業で活用する (情報活用能力の育成事例紹介)
8	調べる学習でのスキル 情報マップとテーマ設定 (学校図書館での演習)
9	調べる学習でのスキル 情報カードの活用
10	調べる学習でのスキル まとめの手法
11	調べる学習でのスキル 発信の手法 ミニ作文
12	特定学年の1単位時間内での指導案作成 1
13	特定学年の1単位時間内での指導案作成 2
14	交流と相互評価
15	まとめ

#### 評価

課題及び調査30%

情報活用スキル理解度確認40%、

論述レポート30%とし、

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業に関する課題を指示する。次回までに、図書館を使って調査実習しまとめておくこと。授業時に発表および提出してもらう。

【事後学修】その日の授業のまとめ、考えを記すフィードバックシートの配布、または授業に関する課題を指示する。次回までに取り組み提出してもらう。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

【推薦書】『探究型学習にとりくもう学校図書館の活用名人になる』国土社 全国学校図書館協議会編

『学校図書館で育む情報リテラシー』全国学校図書館協議会 堀田達也・塩谷京子著

『鳥取・羽合小 「アロハ図書館タイム」はじめます。』全国学校図書館協議会 北田明美

【参考図書】『クシュラの奇跡』のら書房 ドロシー・バトラー 百々由利子

『絵本の力』岩波書店 河合隼雄・松居直・柳田邦夫

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能（技法）」、「思考・判断・表現」に深くかわる科目です。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

#### 評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）とし、総合して評価します。60点以上を合格とします。

取り組みの成果を発表し、振り返りの省察を行います。

#### 授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「知識・理解・技能（技法）」、「思考・判断・表現」に深くかわる科目です。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

## 評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）とし、総合して評価します。60点以上を合格とします。

取り組みの成果を発表し、振り返りの省察を行います。

## 授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd369		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この科目は、本学科のディプロマ・ポリシーの「 思考・判断・表現」、「 関心・意欲・態度」に深くかかわる科目です。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

表現活動既修者が皆さんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

## 評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合して評価します。

取り組みの成果を発表し、振り返りの会で省察を行います。

## 授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	綾井 桜子、日出間 均、富山 哲也		
ナンバリング	KBd170		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

小学校教員の職務や担任教師の動きを「学校教育計画」をもとに理解するとともに、学校現場でその実際を知る。また、担任教師の児童に対する見方や対応のしかたを理解する。

### 科目の概要

大学に入学したばかりの1年生に、小学校教員の職務の基礎的な事項について演習形式で学ぶ。学校現場における学校行事や学校安全の取り組みが、計画的に、組織的に実施されていることを学校現場の実践をもとに具体的に理解していく。また、教職にとっての基礎となる児童理解について、事例を交えながら演習形式で学ぶ。

### 学修目標（＝到達目標）

計画書を作成したり、学校現場に学んだりすることにより、小学校教員の職務を理解し、自分の適性についての判断材料や判断基準を得る。

## 内容

- 学校の1年を、学校教育計画をもとに理解する。
- 担任教師の1年の実際の取り組みを、学校現場の調査・観察をもとに体験的に学びを進める。
- 学校現場における学校行事や学校安全の取り組みの調査・観察をもとに学ぶ。
- 担任教師の児童の関わりについて事例をとおして学ぶ。

### オリエンテーション（学校インターンシップの目的）

富山 綾井

学校の目的、学校の1年間、教師の1年間

日出間

学校行事・学校安全の目標と内容

日出間

学校行事の効果的な取組

日出間

学校安全の効果的な取組

日出間

学校教育計画について

富山

学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 1（例：清掃などの当番活動）

富山

学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 2（例：給食の時間の指導）

富山

学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 3（例：始業式・終業式）

富山

学校種に応じた教育計画（幼稚園、小学校、特別支援学校等）

富山

児童理解について－事例に学ぶ児童の変化への気づきと対応 1

綾井

児童理解について 事例に学ぶ児童の変化への気づきと対応 2

綾井

児童理解について 事例に学ぶ児童の変化への気づきと対応 3

綾井

事例に学ぶ保護者への対応、学級問題への対応

綾井

まとめ

綾井

## 評価

毎時間の学修票の作成（30点）、学習態度・積極性・発言等（30点）、まとめの試験（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

## 授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容の前提となる事項を確認し、関連する資料に目を通す。

【事後学修】インターンシップを実際に体験し、自己評価をし、まとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説(総則編), 小学校学習指導要領解説(特別活動編)

【推薦書】「小学校キャリア教育の手引き」（教育出版）

【参考図書】授業時に指示する。

科目名	教職発展演習		
担当教員名	松岡 敬明、高岩 亜輝子、狩野 浩二、山本 悟		
ナンバリング	KBd370		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

専門科目のうち、教科・教職融合分野の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」に当たります。小学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深めます。また、体験活動については、集団宿泊行事の模擬指導を通して、学校教育における実践的な資質、能力、知識、方法論を理解します。

### 科目の概要

講義を受けるとともに、主体的に事例を調べ発表し合う中で小学校教育に関する理解を深め表現力を高めます。前期は体験学習を通して実践的に学びます（夏期休暇中に2泊3日で実施）。後期は、集中授業の扱いとして、前期に実施した体験学習のまとめや、学校インターンシップの振り返り等を行い、教職に関する資質・素地を養います。

### 学修目標（＝到達目標）

次の3点を授業のめあてとします。

- ・ 宿泊を伴う校外学習の進め方、配慮事項を体験的に学び、基礎基本を修得する。
- ・ 学習活動や子どもとの接し方に関する諸問題に関心を持ち、その現状を調べて教職に関する自分なりの考えを整理する。
- ・ バズセッション等を用いた討論の進め方を身につけ、自分の意見を発表できるようにする。

## 内容

### 前 期

- 1回目 オリエンテーション。年間活動計画と自然体験活動の内容確認。  
学校インターンシップ活動のガイダンス説明（1～3年生合同） : 担当者全員
- 2回目 集団宿泊的行事の位置づけ、指導方法、生活指導、安全管理等を調べる。 : 山本・松岡・高岩
- 3回目 集団宿泊的行事の進め方の確認、班編成 : 山本・松岡・高岩
- 4～6回目 集団宿泊的行事の計画書作成 : 山本・松岡・高岩
- 7回目 集団宿泊的行事の事前指導（しおりをもとに発表活動） : 山本・松岡・高岩
- 8～15回目 : 担当者全員  
赤城山での体験活動と模擬指導（8月29日～8月31日：2泊3日で実施予定）
  - ・ 宿泊を伴う行事の運営と安全管理、生活指導と健康管理
  - ・ 体験活動：登山、ハイキング、野外炊事、キャンプファイアー等
  - ・ 移動時(交通機関を含む)における安全管理

### 後 期

- 1～3回目 集団宿泊的行事の実践報告とまとめ : 担当者全員
- 4回目 学校インターンシップ活動の中間報告会（1～3年生合同） : 担当者全員
- 5～14回目  
学習指導要領および学校インターンシップ活動の実践より課題を設定し、バズセッション等による意見交換を通して教職に関わる基本的な知識や技能の理解を深める。

- ・学校インターンシップ活動の振り返りと発表活動 : 狩野、山本
- ・すぐれた教育実践から学ぶ(授業づくりの素地を深める) : 齋藤、高岩
- ・最新教育問題を考える : 松岡

15回目 まとめ(学校インターンシップ活動の最終報告会:1~3年生合同) : 担当者全員

## 評価

前期の集団宿泊行事に関する事前活動(計画書、指導案作成)やその実践的体験活動(模擬指導)および発表活動を50点、後期の発表活動とレポート等作成を50点として総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表活動とレポートに対して、コメントを行う。

## 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。集団宿泊的行事の計画書作成、各プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業内容を整理するレポート作成。授業で紹介した推薦書、参考図書の自主的講読。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省「小学校学習指導要領」(平成20年度版)

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」(平成20年度版)

【推薦書】【参考図書】授業の中で適宜、紹介する。

科目名	教職応用演習		
担当教員名	山本 悟、日出間 均、富山 哲也、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBd470		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教育職員免許法に基づき、児童教育学科専門科目の内、「教育の理論及び実践の応用に関する科目」として開設される。

#### 科目の概要

4年生で履修する「教育実習」と並列に開設し実習の効果的な実践を補完するとともに、教職に就くための資質・能力を伸ばして即戦力として活躍できる教員となるための基礎を実践と関連付けて学修する。このため、これからの社会で求められる人材像を踏まえた学校教育を展開する方途や学校における諸問題への的確な対応方策等を学修する。また、教育の最新事情や教育課題の解決を意図した演習を行い、履修する学生が各々の児童観や指導観、教育観を理解していく。

#### 学修目標

教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力、及び学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身につける。さらにいじめ、暴力行為、不登校等の生徒指導に関連した基本的な知識や適切な対処法を理解するとともに、自分の考えを文章や言葉で表したり、他者と巧くコミュニケーションできる表現力等を高めることをねらいとする。

#### 内容

1	オリエンテーション、教育実習準備活動 「実習の心得、諸連絡の確認」	: 山本、狩野
2	教育実習準備活動 「実習日誌、関連書類作成」	: 山本、綾井
3	教育実習準備活動 「外部講師講演：教育実習における学び」	: 狩野、星野
4	教育実習における実践 「教育公務員のサービスの理解と実践」	: 宮川
5	教育実習における実践 「学級経営と学級指導の理解と実践」	: 松岡
6	教育実習における実践 「教科指導と授業づくり、その実践」	: 山本、久保田
7	教育実習における実践 「生徒指導、支援を要する児童への対応の理解と実践」	: 高岩
8	学校問題の事例とその解決方策 (学校、教員への信頼と教育効果を高める方策)	: 松岡
9	災害安全・生活安全・交通安全と保健衛生にかかわる教育活動と	: 堀竹、高岩
10	非社会的・反社会的な問題行動の対応について、教育実習の振り返り	: 中西、綾井
11	幼小連携と小学校の実情について、教育実習の振り返り	: 齋藤、綾井
12	最新の教育事情 (新学習指導要領と新しい学び)、教育実習の振り返り	: 松岡、綾井
13	最新の教育事情 (プログラミング教育)、教育実習の振り返り	: 星野、山本
14	最新の教育事情 (ESD: 持続発展教育について)、教育実習の振り返り	: 宮川、山本
15	まとめ: 実践的指導力を高める自己課題と今後の取り組み (レポート作成)	: 山本、狩野

#### 評価

発表活動20%、まとめレポート40%、小レポート20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格と

する。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの自主的購読(30分)。プレゼン活動の準備(1時間)。

【事後学修】授業で得た知識や授業内容のノート整理、配付資料の再考と整理(30分)。振り返り小レポート作成(30分)。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説」(平成29年度版)：販売予定

【推薦書】授業内で適宜、指示する。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	堀竹 充、日出間 均、中西 郁		
ナンバリング	KBd471		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者達に適切に対応できる力を育成する。

#### 内容

オリエンテーション【日出間 堀竹 中西】  
 学校インターンシップについて【日出間】  
 これからの学校教育に望まれること（チーム学校の実現）【堀竹】  
 これからの特別支援教育に望まれること【中西】  
 学級経営のねらい：【堀竹】  
 学校教育目標の実現を目指す具体的方策の立案。  
 （学校インターンシップにおいて心掛けること、気をつけること）  
 学級目標設定の手順【堀竹】  
 学級経営案の作成（学級目標、学級経営方針、学級の実態把握）【堀竹】  
 学力の特徴や傾向、つまずきなどについての実態の把握方法【堀竹】  
 （学校インターンシップにおいて困っていること、悩んでいること）  
 学習評価の実際【中西】  
 学級の実態のとらえ方：学級集団の特性や傾向をつかむ【中西】  
 支援を必要とする子への対応 【中西】  
 学級経営と教科指導の実際 （係や当番活動について）【日出間】  
 学級経営と教科指導の実際 （朝の会や帰りの会の進め方について）【日出間】  
 学級経営と教科指導の実際 （通知表の評価と所見の書き方について）【日出間】  
 （学校インターンシップのまとめと来年度への引継ぎ）  
 学級経営と教科指導の実際 （保護者への通知文や学級通信の書き方と留意点）【日出間】  
 振り返りとまとめ【日出間】

#### 評価

毎回の提出物（30%）、試験（40%）、学習態度・積極性・発言等（30%）によって総合的に評価する。  
 総合評価60点以上を合格とする。  
 【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

## 授業外学習

【事前予習】1年生の学校インターンシップの成果と課題について整理しておく。

【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

授業時に指示します。

### 【推薦書】

授業時に指示します。

### 【参考図書】

授業時に指示します。

科目名	外国語活動		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBd372		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教科又は教職に関する科目に当たり、選択科目となっています。児童にとっての外国語活動とは何かを考察し、児童が学ぶ実践的な場面を考え中高の外国語学習とは異なることを学びます。

#### 科目の概要

外国語活動全般に関する知識を身に付け、児童に外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を育てる指導技術を学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

小学校学習指導要領における外国語活動の趣旨を理解し、指導計画の作成はじめ、実践的指導力を養います。

#### 内容

小学校外国語活動の目標及び内容等を理解し、"Hi, friends!"（文部科学省）の活用の仕方を学びながら実践的指導力を身に付けることを目指します。授業は、講義と演習を交えて進めていきますが、学習者自らが主体的に学ぶことが必要です。授業全般を通じて、様々な指導場面で活用できる Classroom English も実践的に身に付けていきます。

1	オリエンテーション
2	外国語活動導入の経緯
3	小学校外国語活動の役割
4	基本的な外国語指導法
5	"Hi, friends! 1" の内容と年間指導計画
6	"Hi, friends! 2" の内容と年間指導計画
7	"Hi, friends!"を活用した指導の在り方（1）
8	"Hi, friends!"を活用した指導の在り方（2）
9	言語活動（1）（歌、チャンツ）
10	言語活動（2）（ゲーム）
11	言語活動（3）（ゲーム）
12	指導案の作成
13	模擬授業（1）
14	模擬授業（2）
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度20%、レポート50%、模擬授業30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回のレポートをシェアリングする。

## 授業外学習

【事前予習】前時に示されたワークシート等

【事後学修】Classroom English の反復練習

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Hi, friends! 1 & 2 ・文部科学省

小学校学習指導要領解説外国語活動・文部科学省

【推薦書】授業時に紹介する。

【参考図書】直山木綿子・小学校外国活動のあり方と ”Hi, friends!” の活用・東京書籍

科目名	総合学習の授業づくり		
担当教員名	堀竹 充、綾井 桜子、星野 敦子		
ナンバリング	KBd373		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるように指導に配慮し、子供たちの思考力・判断力、表現力等を育むと共に、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得に資するなど、教科と一体となって子どもの力を伸ばすものである。

#### 科目の概要

「生きる力」を育むために、横断的・総合的な学習のみならず探究的な学習の実現を目指す。また、体験的な学習活動の充実にも配慮し、学習活動を通して。そのためには、こうした学習に不可欠の資質・能力の育成を重視し、学び方やものの考え方を身に付ける学習活動の工夫を図った指導案や活動計画をつくる力の育成を目指した指導の在り方を明らかにする必要がある。

#### 学修目標（＝到達目標）

総合的な学習の時間の充実のために必要な、課題発見、課題解決、目標の共有、地域との連携、共同的な学びの実現といった活動に必要な資質・能力・態度の具体的な育成や活動内容の工夫を協力して考えることができる。

#### 内容

1	ガイダンス：総合的な学習の時間の現状と課題（綾井・星野・堀竹）
2	「総合的な学習の時間」で育てるべき資質・能力・態度（堀竹）
3	「総合的な学習の時間」で育てる資質・能力・態度（堀竹）
4	「総合的な学習の時間」での多様な授業実践例から学ぶ（堀竹）
5	「総合的な学習の時間」での多様な授業実践例から学ぶ（堀竹）
6	「総合的な学習の時間」の時間とアクティブラーニング（綾井）
7	「総合的な学習の時間」の時間とアクティブ・ラーニング（綾井）
8	「総合的な学習の時間」の時間の学習評価（堀竹）
9	「総合的な学習の時間」の時間の指導案づくり（星野）
10	「総合的な学習の時間」の時間と地域連携（星野）
11	「総合的な学習の時間」の指導案づくり（星野）
12	「総合的な学習の時間」の指導案づくり（星野）
13	「総合的な学習の時間」の指導案交流会（綾井）
14	「総合的な学習の時間」指導案交流会?（綾井）
15	まとめ（堀竹）

#### 評価

「平常点」を10%、「授業に対する意欲・関心・態度」を10%、「提出物」を20%、「試験」を60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】次時の学習内容を伝え、次時の学習までに調べる課題を提示する。

【事後学修】本時の学習で学んだことをレポートにまとめさせ、提出させる。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示

科目名	ICT教育と教科指導		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KBd374		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

児童教育学科 教科・教職融合分野 教育の理論及び実践の応用に関する科目 の専門選択科目である。

#### 科目の概要

授業でのICT活用が着実に進展し、次期学習指導要領において情報教育の充実やアクティブ・ラーニングへのICT活用が議論される一方で、ICT機器等の整備や教員のICT指導力の点で課題も明らかになっている。本科目では、ICT教育についての理論と実際に授業で活用できる技術を身につけ、教員としての指導力育成に取り組む。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ ICT活用教育、並びに教育の情報化、情報教育に関する理論や考え方が分かる。
- ・ 自ら主体的にICT活用を前提とした教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができる。
- ・ 基本的なICT活用の指導技術を身に付けるとともに、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。

#### 内容

1	情報化の進展と教育の情報化
2	学習指導要領における教育の情報
3	教科指導におけるICT活用
4	情報教育の体系的な推進
5	学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携
6	校務の情報化の推進・教員のICT活用指導力の向上、学校におけるICT環境整備
7	情報活用能力の調査、評価
8	未来へ向かってのICT活用の在り方
9	ICT機器活用体験 ( 電子黒板・デジタル教科書など )
10	プログラミング教育の在り方
11	プログラミング教育の実際
12	ICTを活用した教材設計
13	ICTを活用した教材開発
14	ICTを活用した教材の評価
15	まとめ

#### 評価

平常点 (30%)、授業で課すレポート (35%)及び教材開発 (35%)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】授業で指示する資料などの事前予習

【事後学修】レポート作成、教材開発等

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】授業時間内で指示する

科目名	理科実験・観察演習		
担当教員名	宮川 保之、谷口 正夫		
ナンバリング	KBd375		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

専門科目の内、「教科・教職融合分野」の一つ「教育の理論及び実践の応用に関する科目」である。小中学校の学習内容である理科の観察・実験を効果的に行い、児童のスキルや科学的リテラシーの向上、安全な観察・実験の実践、科学的な見方や考え方を育成する方途、実際に種々の観察・実験を行い、実践的指導力を身に付ける。

科目の概要

理科教育の特質は、実際の観察・実験により、科学的思考力を身に付けさせるところにある。安全でしかも効率よく観察実験を行い、児童の科学的思考力や表現力を高めるため、実際に観察・実験器具の準備や、薬品等の希釈、実験操作等を行う。また、事前の準備や実際の実験など、中学校における理科の内容も扱い、小中の教育課程の接続も踏まえて行う。

学修目標 ( = 到達目標 )

小学校段階における問題解決の方法に加え、中学校段階における分析・解釈について、実際に観察・実験を行い、理科の学習指導方法や観察・実験のスキルを身に付ける。また、観察・実験の事故防止や薬品の希釈・濃度調整など、実際に行うことができる。

内容

履修登録者の学習経験や習熟の程度等を第一回目の授業時に確認し、その結果を踏まえて、以下13回の学習内容とねらいを再吟味する。よって、有能な教員として教壇に立つための理科 ( 科学 ) に関する技術や知識を習得できるものとする。

1	理科学習 ( 観察・実験 ) を楽しく学ぶ方法と教え方 ( ガイダンス )
2	観察・実験方法 1 身の回りの物質の性質を調べ、分類 ( 観察・実験の基礎・基本 )
3	観察・実験方法 2 酸・アルカリ性を示す物質とその性質 ( 化学変化の探究 )
4	観察・実験方法 3 水溶液に電気伝導性と物質の特徴 ( 化学変化とイオンの探究 )
5	観察・実験方法 4 電池をつくり、その仕組みを調べる ( 電流の正体を追究 )
6	観察・実験方法 5 天秤とシーソーの違い ( 力とその大きさの表し方を修得 )
7	観察・実験方法 6 力の釣り合いと合成・分解 ( モデル化と科学的な探究の方途 )
8	観察・実験方法 7 重さと力の違いを実験によって確かめ ( 力の大きさの表現方法 )
9	観察・実験方法 8 滑車による力の大きさの比較 ( 運動とエネルギーの関係を探究 )
10	観察・実験方法 9 水圧や浮力の大きさとその規則性 ( 物質の密度との関係 )
11	観察・実験方法 10 電流とその働き ( 電流回路、電流による発熱の探究 )
12	観察・実験方法 11 水の状態変化 ( 水が氷になるときの事象の探究 )
13	観察・実験方法 12 動物の体のつくり ( ニワトリの手羽先を観察し、標本つくる )
14	観察・実験方法 13 天体の運動を観察 ( モデル実験 )
15	理科の学習を通して物事を深く見つめることのよさについて

## 評価

事前課題15点、観察・実験のレポート(ワークシート)30点、観察・実験のパフォーマンステスト15点、基礎的・基本的な知識・技能の理解度30点、観察・実験の意欲・態度10点、総合評価60点を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】次時の学習課題(観察・実験のねらいと内容)について、調べたり、自らの学習経験を反映させた小レポートを作成し、授業開始時に提出する。

【事後学修】観察・実験に技能や結果の整理等の作業を通して、科学的な見方・考え方についてまとめてレポートする。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説「理科編」, 中学校学習指導要領解説「理科編」

科目名	教育行政概論		
担当教員名	関根 郁夫		
ナンバリング	KBd476		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

専門科目・D教科・教職総合分野の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」領域にある科目である。

#### 科目の概要

教育行政のしくみを学ぶとともに、教育委員会の具体的な施策を研究し、その目的と方策について考察する。教育委員会からの視点で教育について考えるとともに、主体的に教育行政施策を検討する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- 1) 教育行政について、自分で問いを立て、他者と協働して考察できる。
- 2) 教育行政からの視点を持つことにより、より多面的に考えることができる。

#### 内容

前半は教育行政の仕組みや国の施策について学び、後半は埼玉県が独自に実施している政策について学ぶ。

個人・ペア・グループで考え、意見交換しながら、学びを深めていく。クラス全員とペアやグループを組むようにする。

1	ガイダンス 教育行政の基本的しくみについて
2	教育委員会制度の変遷について
3	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」改正と教育委員会・教育長の役割について
4	国と地方の職務権限、教育委員会と校長の職務権限について
5	教育振興基本計画について
6	義務教育費国庫負担制度と教職員人事について
7	教員の働き方改革について
8	埼玉県の学力・学習状況調査の概要について
9	埼玉県の学力・学習状況調査の結果について
10	協調学習 ( 知識構成型ジグソー法 ) と東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構について
11	ミニレポート発表会・評価会、「内外教育」連載『管理職は愉快です』について
12	教育環境整備基金について
13	グローバル教育と職業教育について
14	家庭学習支援プログラムについて
15	レポート発表会・評価会、まとめ

#### 評価

毎回の授業の取組状況 ( 40点 )、毎回の振り返りシート ( 30点 )、レポート ( 30点 ) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業の取組状況と振り返りシートの点数を随時、フィードバックする。

## 授業外学習

【事前準備】前回の授業で提示された課題について調べ、考察する。

【事後学修】毎回の授業後に振り返りシートを完成して提出する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。授業ごとにプリントを配布する。

【参考図書】『教育委員会改革 「地方教育行政法」のどこが変わったのか 5つのポイント』村上祐介編著、学事出版、1,800円

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

##### [テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

##### [テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Rクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### [テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

##### [テキスト]

バイエル教則本 (全音楽譜出版) まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」 (音楽の友社か全音楽譜出版) の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

##### 科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

##### 学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

#### 内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

#### 評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

バイエル教則本（全音楽譜出版）まるで初心者は「新版子どものバイエル上下」（音楽の友社か全音楽譜出版）の方を推奨します。 経験者は 適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	書写・文章表現演習（基礎）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子		
ナンバリング	KBd278		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための基礎と、文章を書くための基礎を身に付ける。

#### 科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し、文字指導に必要な用具（硬筆を中心とする）の扱いや運筆、文字についての知識等を学ぶ（実技を含む）。また、チョークによる板書や「学級だより」の作成など、教師の書く文字についてもそのポイントを学習する。文章表現では、話し言葉と書き言葉の違い、分かりやすい表現など、文章を書くための基礎を身に付けるほか、問いに正対して書くなど、小論文を書く基本を学習する。

#### 学修目標（＝到達目標）

文字表現に関心をもち、進んで文字や文章を書こうとする。

文字指導を行うための基本的な知識を身に付け、板書やプリント作成に生かす。

文章を書くための基礎を身に付け、小論文を書く。

#### 内容

1	ガイダンス，文章表現 ～話し言葉と書き言葉～（綾井）
2	文章表現 ～分かりやすい文章を書く～（綾井）
3	文章表現 ～実用的な文章を書く～（綾井）
4	文章表現 ～問いに正対した文章を書く～（綾井）
5	書写 ～文字指導の概要，学習指導要領の理解，姿勢や筆記具の持ち方，平仮名1～（富山）
6	書写 ～平仮名2～（富山）
7	書写 ～平仮名3，板書の基本・チョークの持ち方～（富山）
8	書写 ～片仮名～（富山）
9	書写 ～学習指導要領「書写」の内容，漢字1：点画の種類と筆順～（富山）
10	書写 ～漢字2：文字の組み立て～（富山）
11	書写 ～漢字3：文字の大きさや配列～（富山）
12	書写 ～読みやすい板書を考える～（富山）
13	書写 ～書写指導の教材のアイデアを考える～（富山）
14	書写 ～書写指導の教材を作る（ICT機器を利用）～（富山）
15	まとめと振り返り，文章表現の工夫，文字指導について考える～（富山）

#### 評価

演習等への参加状況及び作成物の状況70%，最終的な論述レポート30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の学修においては、Bまたは2Bの鉛筆を準備すること。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子、小口 かおり		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことの基礎を学ぶとともに，レポートと小論文を実際に作成しながら，探求したことを適切に文章化するための知識・技能を高める。

学修目標（＝到達目標）

文字を手書きすることに関心を持ち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。

毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。

精度の高い論理的な文章を書くとともに，レポートと小論文を書くための知識・技能を身に付ける。

内容

1	ガイダンス，文章表現 ～論理的な文章を書く基本～（富山）
2	文章表現 ～批判的に読んで考えを書く～（富山）
3	文章表現 ～根拠と意見を踏まえて考えを書く～（富山）
4	文章表現 ～多様な意見を踏まえて自分の考えを書く～（富山）
5	文章表現 ～「引用」した文章を書く～（綾井）
6	文章表現 ～よりよいレポートを書くために～（綾井）
7	文章表現 ～小論文を書く（1）よい小論文とは～（綾井）
8	文章表現 ～小論文を書く（2）実践編～（綾井）
9	書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（小口）
10	書写 ～用具・用材とその扱い方～（小口）
11	書写 点画の書き方，画の組み立て方～（小口）
12	書写 ～文字の組み立て方～（小口）
13	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（小口）
14	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（小口）
15	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（小口）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

#### 授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年度告示版のもの）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子、高橋 英明		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことの基礎を学ぶとともに，レポートと小論文を実際に作成しながら，探求したことを適切に文章化するための知識・技能を高める。

学修目標（＝到達目標）

文字を手書きすることに関心を持ち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。

毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。

精度の高い論理的な文章を書くとともに，レポートと小論文を書くための知識・技能を身に付ける。

内容

1	ガイダンス，文章表現 ～「引用」した文章を書く～（綾井）
2	文章表現 ～よりよいレポートを書くために～（綾井）
3	文章表現 ～小論文を書く（1）よい小論文とは～（綾井）
4	文章表現 ～小論文を書く（2）実践編～（綾井）
5	文章表現 ～論理的な文章を書く基本～（富山）
6	文章表現 ～批判的に読んで考えを書く～（富山）
7	文章表現 ～根拠と意見を踏まえて考えを書く～（富山）
8	文章表現 ～多様な意見を踏まえて自分の考えを書く～（富山）
9	書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（高橋）
10	書写 ～用具・用材とその扱い方～（高橋）
11	書写 点画の書き方，画の組み立て方～（高橋）
12	書写 ～文字の組み立て方～（高橋）
13	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（高橋）
14	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（高橋）
15	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（高橋）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

#### 授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄，参照）。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe379		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

#### 科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

#### 内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得 (英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得 (英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得 (形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

#### 評価

期末試験70%、小テスト ( 毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います ) 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe380		
学 科	人間生活学部 ( K ) - 児童教育学科 ( KB )		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

#### 科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 ( 英語の単語の構造 )、統語論 ( 英語の文の構造 )、意味論 ( 意味の構造 ) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

( i ) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、 ( ii ) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

#### 内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論 ( 1 ) : 形態論のめざすもの
3	形態論 ( 2 ) : 語の内部構造、形態素
4	形態論 ( 3 ) : 形態素分析
5	形態論 ( 4 ) : 語形成規則 ( 偶発的な語形成規則 )
6	形態論 ( 5 ) : 語形成規則 ( 少し規則的な語形成規則 )
7	形態論 ( 6 ) : 語形成規則 ( 規則的な語形成規則 )
8	統語論 ( 1 ) : 統語論のめざすもの
9	統語論 ( 2 ) : 句・文の内部構造
10	統語論 ( 3 ) : 句構造規則
11	統語論 ( 4 ) : 変形規則
12	意味論 ( 1 ) : 意味論のめざすもの
13	意味論 ( 2 ) : 語や文の意味の記述
14	語用論 : 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

#### 評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学（子音と母音）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

他学科に開放されている、児童教育学科の英語学に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「ことばのしくみ」・「英語学」・「英語音声学II」とあわせ4科目すべてを履修すること。なお、「英語音声学II」では、この科目よりも時間の長い発音（音連続・リズム・イントネーション）に注目して応用練習をします。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方にも履修をお勧めします。

母語の個々の音（母音・子音・半母音）の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語の発音を日本語と比較することにより個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

第4, 5章の子音（しいん）と母音（ぼいん）をていねいに練習していきます。

1	1. 現代英語の標準発音 -- 2. つづり字と発音
2	3. 音素
3	4. 子音 閉鎖音
4	4. 子音 摩擦音
5	4. 子音 破擦音
6	4. 子音 鼻音
7	4. 子音 側面音
8	4. 子音 半母音
9	5. 母音 短母音
10	5. 母音 長母音
11	5. 母音 二重母音
12	5. 母音 弱母音と半弱母音
13	6. 音の連続
14	7, 8, 9 .アクセント・リズム・イントネーション
15	【まとめ】

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% （小テスト（適宜）、予習、実技録音課題提出）

## 授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書付属CD音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで何度も発音練習して、映画やネット上の英語音声に親しんでください。人によりますが毎週30分は必要と思います。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	英語音声学（発話実践）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

他学科に開放されている、児童教育学科の英語学に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「ことばのしくみ」・「英語学」・「英語音声学I」とあわせ4科目すべてを履修すること。なお、「英語音声学I」では、この科目よりも時間の短い個々の音（母音・子音・半母音）を詳しくみます。

英語の自然なリズム・イントネーションは、子供か勘のいい人しか身につかないのでしょうか？ この科目では、英語音声学 の教科書の子音と母音の章を復習（英語音声学Iを未修の方は概観）し、さまざまな音声を朗読練習していきます。紹介する音声を何度も朗読して、英語音声に親しみましょう。

英語らしい流暢な発音の修得を狙います。

#### 内容

この授業の教科書は、前期科目の英語音声学1と共通です。第4・5章（子音と母音）を初めの3週でおさらい（英語音声学 を取らなかった人は概観）します。

第4--7週： 第2章（綴り字と発音）... フォニックス初級、中級、上級、応用

第8週： 録音課題

第9週： 第6章（音の連続）... 子音連続を中心に

第10週： 第6章（音の連続）... 音節を中心に

第11週： 第7章（アクセント）

第12週： 第8章（リズム）

第13週： 第9章（イントネーション）... 基礎

第14週： 第9章（イントネーション）... 応用

第15週： まとめ

#### 評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

#### 授業外学習

【事前学習】初回から第3週までは、教科書の子音・母音の章を利用して、教科書付属CD音声の発音練習を行ってください。第4週以降は、教科書の例文や、教室で指示する英文の朗読練習をしてください。平均毎週1時間。

【事後学修】授業で指示した素材の復習発音練習に、毎週30分はかけて下さい。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	ことばへの気づきワークショップ		
担当教員名	向後 朋美、設楽 優子		
ナンバリング	KBe382		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。「ことばのしくみ」と「英語音声学I」で学んだことをふまえるため、この2科目を履修していることが履修の条件となる。また、少なくとも「英語学」「英語音声学II」と同時か、または履修後に履修することが望ましい。

##### 科目の概要

ことばのしくみや働きについての関心を深め、ことばの楽しさ、豊かさに気づくことができるように、協同学習を取り入れた授業を行う。また、小学校外国語活動とのつながりや活用法についても解説を加える。

##### 学修目標（=到達目標）

対象言語としては、まずは母語である日本語、次に英語と比較しながら、両者の仕組みや働きの共通性と相違性を明示的に示せるようになることを目指す。また、日本語音声教育と英語フォニックス教育の知見を活かし、日本語音声(特にピッチアクセント)と英語音声の両体系への気づきを通して、初期の英語学習者の前で自信を持って英語を発音する力を養う。

#### 内容

1	ガイダンス：向後
2	語のしくみ（いろいろな意味を持つ言葉・同じ読み方の漢字）：向後
3	語のしくみ（似た意味の言葉・和語・漢語・外来語・反対の意味の言葉）：向後
4	語のしくみ（なかまの言葉と漢字・熟語の意味と成り立ち）：向後
5	語のしくみ（複合語）：向後
6	文字（日・英）：設楽
7	単音節語フォニックス（英）：設楽
8	語尾が加わるときの綴りの変化規則（英）：設楽
9	多音節語綴り字規則（英）：設楽
10	語アクセント（日・英）：設楽
11	文イントネーション（日中心）：設楽
12	文のしくみ（言葉を分類する・主語と述語）：向後
13	文のしくみ（ようすをあらわすことば・修飾語）：向後
14	文のしくみ（文の組み立て・ことばの法則と例外）：向後
15	まとめ（音声・ことばの規則性に関する考察）：向後

#### 評価

平常点（課題、授業への参加度）50%、授業内の発表・教材作成50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備】ワークショップ形式の授業の前には、発表できるような形の教材を作成の準備をすること(1時間程度)

【事後学修】演習の内容を踏まえて、発表教材の構想を練っておくこと。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

### 【参考図書】

大津由紀雄・窪園晴夫(2008), 『ことばの力を育む』, 慶應義塾大学出版会, 1600円+税

国際交流基金(2009), 日本語教授法シリーズ第2巻『音声を教える』, ひつじ書房, 1500円.

小学校『国語』, 光村図書出版.

松香洋子(2008), 『フォニックスってなんですか?』, mpi Inc.

ジョリーラーニング社著・山下桂世子訳(2017), 『はじめてのジョリーフォニックス ティーチーズブック』.

科目名	英米文学の流れ		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	KBe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

(科目の性格、概要) (1)本科目は教育職員免許法施行規則に定める中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教科に関する科目」の「英米文学」に当たり、英語教諭資格関連分野の「英米文学に関する科目」に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」(前期開講)、「英米小説と女性」(後期開講)の2科目を両方必ず履修してください。(2)英語教職課程を履修していなくても履修可。

(学修目標) 英米文学の流れ、つまり英米文学史の知識を習得してもらいます。英米文学を理解するには、英米文学史の知識は必須です。

#### 内容

文学は歴史、社会、文化と密接に関わっており、英米文学史を学ぶことによって英米文化圏について知ることができます。狭い意味での文学だけではなく、英米文化全般に関心があれば、教職履修者でなくても学ぶ喜びを感じられると思います。ただし、以下の予定、扱う作家や作品、順番などは学生の関心などにより変更することがあります。また、テスト等は別日程では受けることはできません。また発表も、原則として別日程ではできません。健康管理には注意してください。テスト、発表時にやむを得ない事情で欠席する場合は、指定したアドレスに指定した時刻までに連絡がないと単位は無理。

(1回目から6回目まで)アメリカ文学史(7回目から15回目まで)イギリス文学史

(1回目)ガイダンス:英米文学と英米の歴史、アメリカ文学黎明期。(2回目)Franklinなど(3回目)Poe, Hawthorneなど(4回目)Melville, Twainなど(5回目) Dickinson, Dreiserなど(6回目)Fitzgerald, Faulkner, Salingerなど。アメリカ文学まとめ。映画『フォレスト・ガンブ』を見て、アメリカ1950年代以降の歴史やアメリカ的なメンタリティを概観。

(7回目)イギリス文学導入、Chaucerなど(8回目)Shakespeare(9回目)Milton, Pope, Defoe, Swift, Fielding, Blake, Wordsworth, Coleridge, Shelley, Keatsなど(10回目) Austen, Dickens, Thackeray, Brontë, Carrollなど(13回目)Hardy, Wilde, Conrad, Shaw, Kipling, Yeatsなど。また、16世紀から20世紀までのイギリス文学史をヴァージニア・ウルフ『オーランドー』とその映画化作品に見る。(14回目)Joyce, Woolf, Lawrence, T. S. Eliot, Forsterなど。(15回目)Maugham, Orwell, Greeneなど。イギリス文学まとめ。

#### 評価

総合評価60点以上が合格。(1)テーマに関する意見の発表等、授業への取り組み:40%(2)発表、レポート等や英米小説の知識等のテスト、定期試験:60%(レポート提出は学期途中。授業でコメントなどを行う。テスト類は採点して返却解説。)(3)定期試験欠席は証明と指定したアドレスへの連絡が必要。なければ単位は無理。

## 授業外学習

(事前学修)教科書、プリント等の課題を授業前に勉強。(事後学修)教科書、プリント等を復習し、知識を自分のものにする。考えや疑問点をまとめてくる。<事前、事後学修合わせて毎日20分から40分程度。これらをやっていないと「評価」(2)はもちろん(1)ができません。>

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書)福田『イギリス・アメリカ文学史』(南雲堂)(フジショップ扱い)(一生使える良書で定価2600円はお得。)+プリントなど。(推薦書など)授業で指示。(その他)英文を読むので辞書は必要。

科目名	英米小説と女性		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	KBe384		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

(科目の性格、概要) (1)本科目は教育職員免許法施行規則に定める中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教科に関する科目」の「英米文学」に当たり、英語教諭資格関連分野の「英米文学に関する科目」に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」(前期開講)、「英米小説と女性」(後期開講)の2科目を両方必ず履修してください。(2)英語教職課程を履修していなくても履修可。

(学修目標) 英米小説、そしてそれを取り巻く歴史や文化などに関する知識を習得してもらいます。ただし、「英米小説」というテーマはあまりに大きいので、この授業では「女性」という観点から英米小説に取り組みます。

#### 内容

英米小説を「女性」という観点から学ぶ際に看過できない問題である社会、家族、恋愛、結婚、相続などを考慮して、主にジェイン・オースティン『高慢と偏見』(『自負と偏見』の訳もある)とシャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』を取り上げます。それぞれの作品の映像化作品も見て、理解を深めてもらいます。こうした事柄に関心があれば教職履修者でなくても学ぶ喜びを実感できるでしょう。(テスト等は別日程では受けることはできません。また発表も、原則として別日程ではできません。健康管理には注意してください。テスト、発表時にやむを得ない事情で欠席する場合は、指定したアドレスに指定した時刻までに連絡がないと単位は無理。)

(1回目)ガイダンス：英米文学と女性について。『高慢と偏見』への導入。

(2回目～8回目) ジェイン・オースティン『高慢と偏見』。原作抜粋をプリントで配付して読む。

(2回目)オースティンについて。相続と女性。ベネット夫妻とベネット5人姉妹。(3回目)恋愛、結婚と女性。長女ジェインの恋。(4回目)相続と結婚。(5回目)当時のイギリス社会における結婚と女性。(6回目)誤解と行き違い。高慢、自負がどう変わるか。(7回目)それぞれの成長。映画作品『プライドと偏見』(2005)を見て、当時の人々の生活や服装などを映像で見せよう。(8回目)『高慢と偏見』最終章。登場人物たちのその後。

(9～15回目) シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』。原作抜粋をプリントで配付して読む。

(9回目)ブロンテ姉妹について。『ジェイン・エア』導入。孤児ジェインの不遇な少女時代。(10回目)ジェインと学問。女性の自己実現と当時のイギリス社会。(11回目)ガヴァネス(住み込み家庭教師)について。(12回目)ジェインの恋。BBCドラマJane Eyre(2006)を見て、建物などを映像で見せよう。(13回目)ヴィクトリアニズムについて。(14回目)ジェインの選択。(15回目)『ジェイン・エア』最終場面。女性と英米小説、まとめ。

#### 評価

総合評価60点以上が合格。(1)テーマに関する意見の発表等、授業への取り組み:40%(2)発表、レポート等や英米小説の知識等のテスト、定期試験:60%(レポート提出は学期途中。授業でコメントなどを行う。テスト類は採点して返却解説。)(3)定期試験欠席は証明と指定したアドレスへの連絡が必要。なければ単位は無理。

## 授業外学習

(事前学修) プリント等の課題を授業前に勉強する。(事後学修) プリント等を読んで復習し、知識を自分のものにする。考えや疑問点をまとめてくる。<事前、事後学修合わせて毎日20分から40分程度。これらをやっていないと「評価」(2)はもちろん(1)ができません。>

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書) Jane Austen, *Pride and Prejudice* / Charlotte Bront

?, *Jane Eyre*の抜粋プリント。その他、解説等のプリントを配布。(推薦図書) 授業内で適宜紹介(その他) 英文を読むので辞書は必要。

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KBe385		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

学科選択科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 ( 言語、非言語 ) が充分でないからなのか、それとも、考え方 ( 文化 ) が違うからなのだろうか。授業では、特に英語圏の文化を比較の対象としながらコミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容	
1	異文化コミュニケーション研究の歴史 ( 1 ) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 ( 2 ) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション ( 1 ) ; 動作
7	非言語コミュニケーション ( 2 ) : 外見
8	言語によるコミュニケーション ( 1 ) : 英語と日本語
9	言語によるコミュニケーション ( 2 ) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション : 国際公用語としての英語
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

### 評価

レポート ( 50% )、試験 ( 50% ) で総合評価。60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

### 授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石井敏他 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 2013年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	比較文化論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KBe386		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

英語教諭資格関連分野の科目となります。『異文化コミュニケーション』と同様、異文化への理解を深めていきます。

#### 科目の概要

グローバル社会においては異なる文化をもつ人々への理解と尊重が必要となってきます。各文化の思考や様式に関する知識を身につけるとともに、自文化の持つ非常識・常識の概念を見つめし多様な文化を複眼的にとらえる力を養っていきます。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- ( 1 ) 多文化社会の課題、問題点について深く考察すること
- ( 2 ) 異なる文化と比較しながら日本の文化について自分の考えを述べること

#### 内容

異文化 ( 主に欧米 ) の日常的な文化事象を取り上げながら、日本文化における類似の事象や日本人のとらえかたについてグループ、または全員で考えていきます。また、外国人にとって理解し難い日本の習慣や文化についても具体的な例をあげながら、その理由や背景にある事情について考察していきます。

1	ガイダンス ( 授業の進め方、自己紹介など )
2	文化とは何か、比較文化とは何か
3	食生活の比較 ( お粗末な料理、グルメなのかゲテモノ好きなのかなど )
4	食生活 ( 世界の和食 )
5	住生活 ( ベッドと布団、きれい好きの国、家具にこだわる国など )
6	社会生活とマナー ( 相手と目を合わすか合わさないか、勤勉家と楽道家など )
7	ことば ( 近隣国の言語との戦い、日本語は世界の言語になれる? など )
8	教育 ( 自主性を伸ばす教育、ユニークな教育大国、つめこみ教育など )
9	年中行事 ( バレンタインデーやクリスマスの違いなど )
10	娯楽 ( 演劇、映画、伝統芸能など )
11	芸術文化 ( 日本ブーム、日本で人気の海外文学作品など )
12	世界から見た日本 ( ジョーク集に出てくる日本人 )
13	まとめ
14	プレゼンテーション 1
15	プレゼンテーション 2

#### 評価

授業への参加度30%、毎回のコメント10%、プレゼンテーション ( 発表 ) 60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前準備/事後学修】身近な出来事を通して、文化的意味や背景について常に考えるように心掛けること。最後にプレゼンテーションを行うので、日ごろからメディア等で報道される問題に関心を持って資料を集めるようにしてください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書/参考図書】授業内で紹介する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標（=到達目標）

卒業研究の進め方やテーマのもち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及

び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	高岩 亜輝子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

##### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

##### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。

##### 前期

- 1) 各自、興味があるテーマについて文献を調べ、検索した文献を抄読し、研究の進め方の基礎を学ぶ。
- 2) 研究計画の立て方の基本を学び、研究テーマに応じた研究計画書を作成する。
- 3) 卒業研究の内容を絞り込むために研究計画の発表、質疑応答、討論を行ない、研究テーマを明確化させる。

##### 後期

- 1) 研究を進める上で、倫理的な配慮について学ぶために倫理書類を作成する。
- 2) 調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法を共有する。
- 3) 学外で授業の機会も設けることがある。

#### 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40点) という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、方法の検討、統計分析の復習、報告の準備等を行なう。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備等を行なう。

【事後学修】研究計画に従い、自らの研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】研究計画書の考え方 妹尾堅一郎 ダイヤモンド社  
理科系の作文技術 木下是雄 中公新書

【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標（＝到達目標）

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び

提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び

提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動する。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとにしつつ、学生が自らテーマを設定する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。共通するテーマについては、共通の文献・資料を紹介するので、読み、議論を行う。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期は、前期で学んだことを活かして文章化し、論文作成につなげる。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献（先行研究）の収集を行う。

自分の問いを明確化し、研究を進める準備に取りかかる。自分の問いを文章化し、問いについて明らかにする過程をゼミの中で発表する。研究・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び

提出物（60点）、ゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢・進捗状況を定期的に報告する（40点）、とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】課題への取り組み（文章化）については、コメントを記載し、次回以降の授業にて返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等（毎週、1時間程度）。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる（文章化する）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度、提示する。

【参考図書】教育思想史学会編『教育思想事典（増補改訂版）』勁草書房、2017年。日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂、2012年。ポーラ・S・ファス編『世界子ども学大事典』原書房、2016年。ほか、授業時に提示する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。故に、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

卒業研究ゼミナールでは、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容を深める。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会を設ける予定である。また、卒業研究のテーマの絞り込みと内容の決定に向けて次のような活動を展開し、卒業研究の骨子を確立していく。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容の修正を重ねていく。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

#### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

#### 内容

ゼミナールにおいては、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。英語教育、コミュニケーション等の分野を中心に、各自のテーマにそった研究を推進し、曾卒業論文へつなげていく。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、資料収取や論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

9月上旬 (後期開始前) に合宿を実施し、各自、中間発表を行う。

後期には、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。  
加えて、卒業論文作成のための基礎的技能であるタッチタイピングをマスタ する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び

提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目のねらいは、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。3年次のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するのである。既に参考として提示した研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要がある。

#### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を理解し、4年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行う。

#### 内容

演習(ゼミ)では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、特別支援学校教育に係わる研究分野を理解しておく必要がある。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び

提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。
- 後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。
- 【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

## 内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。このゼミでは、発達障害やその他の教育的支援ニーズをもつ幼児・児童・生徒等の、多様な学びを支える支援に関する内容について、研究を深める。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。また、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成、療育の計画等、研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

後期には、小学校の授業参観、特別支援教育センターに相談依頼のあった事例を通しての臨床研究など、先進校視察、各種アンケートやインタビュー、療育等の機会も設けることがある。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40点) という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて、また、療育等の振り返りにおいて、コメントを付す。

#### 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等を行い(毎週1時間程度)、夏期休業中に実施する特別支援教育ゼミ合宿で中間報告を行う。後期には、各自のテーマに合わせた研究・調査・療育等を進め、卒業研究執筆のための準備を行う(毎週2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	堀竹 充		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目のねらいは、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。3年次のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するのである。既に参考として提示した研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要がある。

#### 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を理解し、4年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行う。

#### 内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

## 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年でのゼミナールに引き続き、自らの興味・関心をもつ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次のゼミナールでテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味・関心をもった分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しをもつことを目指す。発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	高岩 亜輝子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生と、研究について批評や意見を交わし、担当教員からの指導を受け、研究を進めていく。9月に題目を決定し、中間抄録を報告し提出する。その後、10月、11月に、作成中の原稿を報告、提出する。

12月に最終提出とするまで、段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究進捗状況を定期的に発表、報告するなど、研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】演習にて受けた指摘をもとに、内容等を再考し、卒業論文のために、文章化を進める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008年。その他、その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの卒業研究ゼミナールに引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月中旬に途中経過報告。11月には第一次原稿提出、そして12月中旬に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標（＝到達目標）

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の卒業研究ゼミナールでテーマや研究の方向付けをしてきた内容や自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを定め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることが目的となる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認、研究内容と研究手法の理解共有を図りながら進めていく。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、アンケートやインタビュー調査等を実施して研究内容を文章にまとめ仕上げていく。

#### 主な取り組みの内容

- ・テーマ（研究題目）の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施（アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等）
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整えまとめる

#### 評価

卒業研究(提出された卒業論文) (70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

#### 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査結果の収集 ( 文部科学省調査等 )
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

#### 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	堀竹 充		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の内容のある研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 80点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 20点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして、3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、一つの研究論文としてまとめるものである。

#### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料・文献の収集整理を行うとともに、3年次より計画・実施してきた調査・研究・療育等の結果をまとめ、自分の考えを加えて考察し、研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

#### 学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は3年次に確定したテーマをもとに、調査・研究を継続して進める。途中経過の発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまでの大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

#### 主な取り組み内容

- ・テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査、療育等 )
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

##### 科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

#### 内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

##### 主な取り組み内容

- ・ テーマ ( 研究題目 ) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 ( アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等 )
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

#### 評価

卒業研究 ( 提出された卒業論文 ) ( 70点 ) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 ( 30点 ) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

## 授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。